
令和4年度第1回岩手県公共事業評価専門委員会

日 時 令和4年6月16日（木）9:30～12:00

場 所 エスポワールいわて 3階 特別ホール

次 第

1 開 会

2 挨拶

小笠原専門委員長

3 議 事

(1) 令和4年度専門委員会の開催スケジュール等について

(2) 公共事業の再評価について

- ・ 中山間総合整備事業（生産基盤）市野々地区（一関市）
- ・ 農道整備事業 上野2期地区（一戸町）
- ・ 林道整備事業 八木玉川線（洋野町）
- ・ 林道整備事業 甫嶺線（大船渡市）
- ・ 林道整備事業 安孫・平糠線（一戸町・葛巻町）
- ・ 林道整備事業 鈴峠2号線（葛巻町）
- ・ 林道整備事業 渋梨一ノ渡線（大槌町）
- ・ 地域連携道路整備事業（地域密着型）一般県道北上和賀線小田中（北上市）
- ・ 地域連携道路整備事業（地域密着型）一般県道普代小屋瀬線松林～坂本（岩泉町）

(3) その他

4 閉 会

岩手県公共事業評価専門委員会委員名簿(五十音順)

| 氏 名 | 職 | 専門分野 | 備 考 |
|---------|---------------------|------|--------|
| 石 川 奈 緒 | 岩手大学工学部 准教授 | 土木環境 | |
| 伊 藤 幸 男 | 岩手大学農学部 准教授 | 林政学 | |
| 小笠原 敏 記 | 岩手大学工学部 教授 | 海岸工学 | 専門委員長 |
| 清 水 真 弘 | 堤研一事務所 公認会計士・税理士 | 企業会計 | |
| 谷 本 真 佑 | 岩手大学工学部 助教 | 交通工学 | Web出席 |
| 武 藤 由 子 | 岩手大学農学部 准教授 | 農業土木 | 副専門委員長 |

(敬称略)

令和4年度第1回公共事業評価専門委員会

配付資料一覧

資料 No. 1 令和4年度公共事業評価専門委員会開催スケジュール等（案）

資料 No. 2 諮問書の写し

資料 No. 3 令和4年度公共事業再評価地区 位置図

資料 No. 4 令和4年度公共事業再評価調書

- ・ 中山間総合整備事業（生産基盤）市野々地区（一関市）
- ・ 農道整備事業 上野2期地区（一戸町）
- ・ 林道整備事業 八木玉川線（洋野町）
- ・ 林道整備事業 甫嶺線（大船渡市）
- ・ 林道整備事業 安孫・平糠線（一戸町・葛巻町）
- ・ 林道整備事業 鈴峠2号線（葛巻町）
- ・ 林道整備事業 渋梨一ノ渡線（大槌町）
- ・ 地域連携道路整備事業（地域密着型）
一般県道北上和賀線小田中（北上市）
- ・ 地域連携道路整備事業（地域密着型）
一般県道普代小屋瀬線松林～坂本（岩泉町）

参考資料 詳細審議対象地区の選定について

令和4年度公共事業評価専門委員会開催スケジュール等（案）

1 審議・報告案件

(1) 再評価案件の審議（9地区）

- ・ 中山間総合整備事業（生産基盤）市野々地区（一関市）
- ・ 農道整備事業 上野2期地区（一戸町）
- ・ 林道整備事業 八木玉川線（洋野町）
- ・ 林道整備事業 甫嶺線（大船渡市）
- ・ 林道整備事業 安孫・平糠線（一戸町・葛巻町）
- ・ 林道整備事業 鈴峠2号線（葛巻町）
- ・ 林道整備事業 渋梨一ノ渡線（大槌町）
- ・ 地域連携道路整備事業（地域密着型）一般県道北上和賀線小田中（北上市）
- ・ 地域連携道路整備事業（地域密着型）一般県道普代小屋瀬線松林～坂本（岩泉町）

(2) 事後評価案件の報告（3地区）

- ・ かんがい排水事業 鹿妻新堰（盛岡市）
- ・ 林道整備事業 八戸・川内（岩泉町）
- ・ 通常砂防事業 馬淵川水系馬淵の沢（葛巻町）

2 専門委員会のスケジュール

| | 開催日時 | 開催場所 | 主な内容(予定) |
|----------|--------------------------|----------------------|-----------------------|
| 第1回専門委員会 | 6月16日(木) 9:30~12:00 | エスポワールいわて 3階特別ホール | 詳細審議地区選定 |
| 第2回専門委員会 | 7月15日(金) 13:30~16:00 | 岩手県水産会館 5階大会議室 | 詳細審議 現地調査箇所の 選定 |
| 第3回専門委員会 | 8月1日(月) 9:30~17:00 | 現地調査 | 現地調査 |
| 第4回専門委員会 | 9月5日(月) 14:00~16:30 | エスポワールいわて 3階特別ホール | 継続審議 答申案の検討 報告 |
| 第5回専門委員会 | 10月28日(金) 14:00~16:00 | エスポワールいわて 3階特別ホール | 予備 |
| 第6回専門委員会 | (令和5年2月) | 別途調整予定 | 次年度の予定等 |

※審議状況等により、開催回数、開催時期が変更になる場合があります。

諮問書の写し



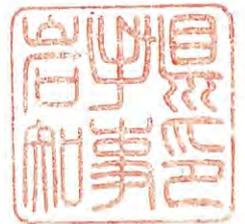
政 第 46 号

令和 4 年 6 月 9 日

岩手県政策評価委員会

委員長 加藤 徹 様

岩手県知事 達 増 拓 也



令和 4 年度公共事業再評価について（諮問）

政策等の評価に関する条例（平成 15 年岩手県条例第 60 号）第 10 条第 1 項の規定に基づき、別紙の公共事業に係る再評価について意見を聴きたいので、再評価調書を付して諮問します。

(別紙)

令和4年度公共事業再評価対象事業一覧表

担当部局名：農林水産部

| 課名 | 事業名 | 地区数 | ①未着工 | ②再評価 | ③再々評価 | ⑤随時評価 | ⑥国指針による評価 |
|-------|-----------------|-----|------|------|-------|-------|-----------|
| 農村建設課 | 中山間総合整備事業（生産基盤） | 1 | | 1 | | | |
| 農村建設課 | 農道整備事業 | 1 | | 1 | | | |
| 森林保全課 | 林道整備事業 | 5 | | 1 | 4 | | |
| 合計 | | 7 | 0 | 3 | 4 | 0 | 0 |

担当部局名：県土整備部

| 課名 | 事業名 | 地区数 | ①未着工 | ②再評価 | ③再々評価 | ⑤随時評価 | ⑥国指針による再評価 |
|-------|-------------------|-----|------|------|-------|-------|------------|
| 道路建設課 | 地域連携道路整備事業（地域密着型） | 2 | | 2 | | | |
| 合計 | | 2 | 0 | 2 | 0 | 0 | 0 |

| | | | | | | | |
|-----|--|---|---|---|---|---|---|
| 総合計 | | 9 | 0 | 5 | 4 | 0 | 0 |
|-----|--|---|---|---|---|---|---|

※再評価要件：

- ① 事業に着手した年度から起算して5年度内に未着工の事業
- ② 事業に着手した年度から起算して10年度内に完了が見込まれない事業（再評価を行う翌年度内に完了が見込まれるものは除く。）
- ③ 再評価を行った年度の翌年度から起算して5年度又は10年度内に完了する見込みがない事業（再々評価）
（再評価を行う翌年度内に完了が見込まれるものは除く。）
- ④ 事業の準備又は実施計画に係る調査に要する費用が予算に計上された年度から起算して5年度内に事業に着手する見込みがない事業
（地域高規格道路及びダム事業に限る）
- ⑤ 社会経済情勢の急激な変化、事業計画の重要な変更等により、再評価を実施する必要があると判断した事業（随時再評価）
- ⑥ 国の補助に係る事業の評価に関して国から別に指針等が示された場合で、当該指針等に従って評価を実施する必要があると判断した事業（随時再評価）



令和4年6月9日

岩手県政策評価委員会公共事業評価専門委員会
専門委員長 小笠原 敏記 様

岩手県政策評価委員会
委員長 加藤 徹



令和4年度公共事業再評価に係る諮問について

政策等の評価に関する条例（平成15年岩手県条例第60号）第10条第1項の規定に基づき、別添のとおり岩手県知事から公共事業に係る再評価について諮問がありましたので通知します。

公共事業 再評価箇所一覧表

農林水産部

| 番号 | 課名 | 事業名 | 路線名等 | 箇所名 | 事業計画 | | | | 再評価結果 | | | | | | 再評価の要件 | | |
|----|-------|-----------------|--------|---------|------|--------|-----------------------------------|-----------|-----------|------|---|-----------|------|------|--------|-----------------|---|
| | | | | | 着手年度 | 完了予定年度 | 主な事業内容 | 総事業費(百万円) | (1)事業進捗状況 | | | (2)社会経済情勢 | | | | 総合評価 (対応方針案) | |
| | | | | | | | | | 進捗状況 | 計画変更 | | 社会経済 | 評価指標 | 自然環境 | | | |
| 1 | 農村建設課 | 中山間総合整備事業(生産基盤) | 市野々地区 | 一関市 | H25 | R7 | 区画整理 用排水路 A=86.5ha A=75.7ha | 3,965 | BB | b | b | A | a | b | a | 事業継続 | ② |
| 2 | 農村建設課 | 農道整備事業 | 上野2期地区 | 一戸町 | H25 | R8 | 農道 L=2,902m | 1,026 | BB | b | b | AA | a | a | a | 事業継続 | ② |
| 3 | 森林保全課 | 林道整備事業 | 八木玉川線 | 洋野町 | H20 | R6 | 林道開設、w=5.0m L=9,537m | 1,190 | BB | b | b | AA | a | a | a | 事業継続 | ③ |
| 4 | 森林保全課 | 林道整備事業 | 甫嶺線 | 大船渡市 | H25 | R9 | 林道開設、w=4.0m L=5,600m | 900 | BB | b | b | AA | a | a | a | 事業継続 | ② |
| 5 | 森林保全課 | 林道整備事業 | 安孫・平糠線 | 一戸町・葛巻町 | H20 | R9 | 林道開設、w=5.0~7.0m、 L=5,674m | 2,932 | BB | b | b | A | a | b | a | 事業継続 | ③ |
| 6 | 森林保全課 | 林道整備事業 | 鈴峠2号線 | 葛巻町 | H20 | R9 | 林道開設、w=4.0m L=10,790m | 855 | BB | b | b | AA | a | a | a | 事業継続 | ③ |
| 7 | 森林保全課 | 林道整備事業 | 渋梨一ノ渡線 | 大槌町 | H20 | R9 | 林道開設、w=4.0m L=8,015m | 1,476 | BB | b | b | AA | a | a | a | 事業継続 | ③ |

県土整備部

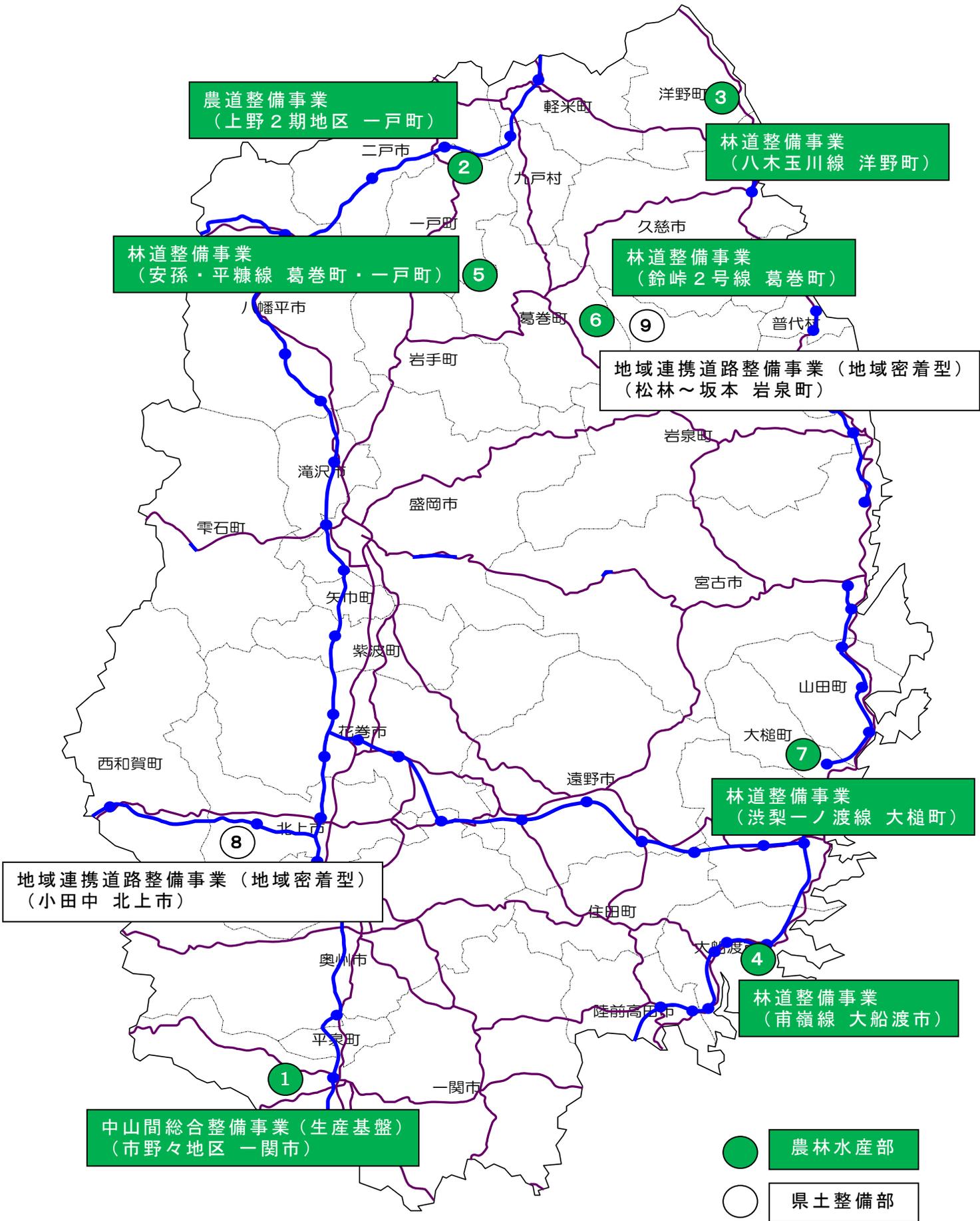
| | | | | | | | | | | | | | | | | | |
|---|-------|-------------------|-----------------|-----|-----|----|---|-------|----|---|---|----|---|---|---|------|---|
| 8 | 道路建設課 | 地域連携道路整備事業(地域密着型) | (一)北上和賀線 小田中 | 北上市 | H25 | R7 | 計画延長 L=1,860m 計画幅員 w=6.0(11.5)m 橋梁 N=1基 | 1,600 | BB | b | b | AA | a | a | a | 事業継続 | ② |
| 9 | 道路建設課 | 地域連携道路整備事業(地域密着型) | (一)普代小屋瀬線 松林~坂本 | 岩泉町 | H25 | R9 | 計画延長 L=1,530m 計画幅員 w=4.0(5.0)m | 350 | BB | b | b | AA | a | a | a | 事業継続 | ② |

注1) 「再評価結果」欄は、再評価調査による中項目評価、大項目評価及び総合評価の結果を記載すること。

注2) 「再評価の要件」欄は、当該事業が該当する再評価の要件を下記の区分により記載すること。

- ① 事業に着手した年度から起算して5年度内に未着工の事業
- ② 事業に着手した年度から起算して10年度内に完了が見込まれない事業
- ③ 再評価を行った年度の翌年度から起算して5年度又は10年度内に完了する見込みがない事業(再々評価)
- ④ 事業の準備又は実施計画に係る調査に要する費用が予算に計上された年度から起算して5年度内に事業に着手する見込みがない事業(地域高規格道路及びダム事業に限る)
- ⑤ 社会経済情勢の急激な変化、事業計画の重要な変更等により、再評価を実施する必要があると判断した事業(随時再評価)
- ⑥ 国の補助に係る事業の評価に関して国から別に指針等が示された場合で、当該指針等に従って評価を実施する必要があると判断した事業(随時再評価)

令和4年度公共事業再評価地区 位置図



令和4年度公共事業再評価調書 目次

農林水産部

| 番号 | 課名 | 事業名 | 地区名 | ページ |
|----|-------|-----------------|-----------------|-------|
| 1 | 農村建設課 | 中山間総合整備事業(生産基盤) | 市野々地区(一関市) | 10～14 |
| 2 | 農村建設課 | 農道整備事業 | 上野2期地区(一戸町) | 15～19 |
| 3 | 森林保全課 | 林道整備事業 | 八木玉川線(洋野町) | 20～24 |
| 4 | 森林保全課 | 林道整備事業 | 甫嶺線(大船渡市) | 25～29 |
| 5 | 森林保全課 | 林道整備事業 | 安孫・平糠線(一戸町・葛巻町) | 30～34 |
| 6 | 森林保全課 | 林道整備事業 | 鈴峠2号線(葛巻町) | 35～39 |
| 7 | 森林保全課 | 林道整備事業 | 渋梨一ノ渡線(大槌町) | 40～44 |

県土整備部

| 番号 | 課名 | 事業名 | 地区名 | ページ |
|----|-------|-----------------------|----------------------|-------|
| 8 | 道路建設課 | 地域連携道路整備事業 (地域密着型) | 一般県道 北上和賀線小田中(北上市) | 45～49 |
| 9 | 道路建設課 | 地域連携道路整備事業 (地域密着型) | 一般県道普代小屋瀬線松林～坂本(岩泉町) | 50～54 |

| | | | | | | | | | | | |
|---|---|-----------------------------------|-----------------------------------|-------------------|------------|---------------|------------------------------|----------------------------|------------------|------|-------|
| 事業名 | 中山間地域総合整備事業（生産基盤） | 補助 | 単独 | 担当部課名 | 農林水産部農村建設課 | | | | | | |
| 路線名等 | — | 地区名 | いのの市野々 | 市町村 | 一関市 | | | | | | |
| 〔事業根拠法令等：土地改良法〕 | | | | | | | | | | | |
| 事業概要 | <p>(1) 事業目的</p> <p>○解決すべき課題 本地区は、一関市中心部より西方10kmに位置し、国道457号線と、一級河川久保川及び市野々川流域に点在する集落を中心に展開する水田地帯である。 地区内の未整備ほ場は、小区画・不整形で農道も不備であるほか、水路も用・排水路兼用で浅いことから排水機能を果たしていない。また、昭和50年代に整備された用・排水路の老朽化により漏水が顕著となるなど、営農に支障を来すと共に維持管理費が増大している。</p> <p>○整備によって得られる効果</p> <ul style="list-style-type: none"> ・水田の区画整理や道水路の一体的な整備により、農業の生産条件が向上する。 ・用排水路の更新整備により、水管理や維持管理のための負担が大幅に軽減される。 ・各集落における集落営農組織の確立により、農地の利用集積が促進され、生産コストの節減が図られる。 <p>(2) 事業内容</p> <ul style="list-style-type: none"> ・区画整理 A=86.5ha ・用排水路 A=75.7ha <p>(3) 整備目標等</p> <p>いわて県民計画（2019～2028）</p> <p>IV 仕事・収入、37 収益力の高い「食料・木材供給基地」をつくります、④ 生産基盤の着実な整備 農業の生産条件が不利な中山間地域における地域のニーズに合わせたきめ細かな基盤整備の推進 水田整備面積 2019（15,100ha）→2022（16,000ha）</p> | | | | | | | | | | |
| | 事業着手 | H25年度 | 事業計画期 | H25 | ～ | R7 (H30) | 再評価時全体計画期間 (当初全体計画期間) | 用地着手 | H25年度 | 工事着手 | H26年度 |
| | 事業費 | 当初計画時 総事業費 (H25) (うち用地費) | 再評価時 総事業費 (R4) A (うち用地費) | 事業費の状況 [百万円] | | | | | | | |
| | | 2,643 (24) | 3,965 (17) | H25年～ R2年 B | R3年 C | R4年 D | 投資事業費 E=B+C+D | 財源 | 進捗率 F=E/A | | |
| | | | 2,934 (3) | 200 (14) | 373 (0) | 3,507 (17) | 国庫 1,928 県 1,053 他 526 | 88.4% | | | |
| 事業の進捗状況等 | <p>(1) 事業の進捗状況</p> <p>ア 整備効果の発現状況</p> <ul style="list-style-type: none"> ・区画整理は令和3年度までに完了 ・本事業を契機に赤猪子営農組合等、担い手が組織化されたほか、整備済のほ場において、区画の拡大、道水路の整備により、生産条件が向上、担い手への集積率も向上した。 担い手への集積率 H24(事業実施前) 9.0%、R5(目標年度) 64.7% R2時点67.5%(58.5%向上) ・用排水施設の整備により、老朽化による漏水が解消され、維持管理の負担が軽減した。（令和3年まで6.8km〔受益面積 24.5ha〕整備済み） <p>イ 未着工及び工事遅延等の理由並びに解決の見通し</p> <p>①工事遅延理由：本地区では未整備農地を改善するため区画整理を優先的に実施しているが、中山間地特有の地形勾配が急峻で蛇行した河川に沿った細長い農地であるため、切土盛土や表土運搬などの工事に想定以上の時間を要したこと、加えて、岩盤出土や湧水処理の対策工に不測の時間を要したことにより、農業用排水の着手が遅延したもの。</p> <p>②解決の見通し：区画整理については、岩盤出土や湧水処理の対策工に時間を要したものの令和3年度に完了。農業用排水については、令和2年度から着手し、令和7年度に完了する見通し。</p> <p>○中項目評価は、事業を阻害する要因はあったが、解決できる見通しが立っており、今後は計画的な進捗が見込まれることから「b」とした。</p> | | | | | | | | | | |
| | <table border="1" style="margin: auto;"> <tr> <td style="padding: 2px;">中項目評価</td> <td style="padding: 2px;">a . b . c</td> </tr> </table> <p style="text-align:right; font-size: small;">(単位：百万円)</p> | | | | | | | 中項目評価 | a . b . c | | |
| | 中項目評価 | a . b . c | | | | | | | | | |
| | <p>(2) 事業計画の変更の有無及び内容</p> <p>① 変更内容</p> <ul style="list-style-type: none"> ・区画整理施工面積の増(69.9ha→86.5ha) ・農業用排水施工延長の減(21.7km→21.0km) ・事業期間の延伸(6年→13年) <p>② 「b」と判断した理由</p> <p>○中項目評価は、事業計画の変更はあるものの、土地改良法上、変更内容が「軽微な変更」に当たることから「b」とした。</p> | | | | | | | | | | |
| <table border="1" style="margin: auto;"> <tr> <td style="padding: 2px;">中項目評価</td> <td style="padding: 2px;">a . b . c</td> </tr> </table> <p>○中項目評価が「b」、「b」であることから、大項目評価は「BB」とした。</p> | | | | | | | 中項目評価 | a . b . c | | | |
| 中項目評価 | a . b . c | | | | | | | | | | |
| <table border="1" style="margin: auto;"> <tr> <td style="padding: 2px;">評価</td> <td style="padding: 2px;">AA . A . BB . B . C</td> </tr> </table> | | | | | | | 評価 | AA . A . BB . B . C | | | |
| 評価 | AA . A . BB . B . C | | | | | | | | | | |

(1) 事業に関する社会経済情勢

ア 全国の状況

令和3年3月に、「土地改良長期計画」(計画期間：令和3～7年度)が閣議決定され、「持続的に発展する農業と多様な人が住み続けられる農村の実現」を基本理念とし、3つの政策課題（Ⅰ.生産基盤の強化による農業の成長産業化、Ⅱ.多様な人が住み続けられる農村の振興、Ⅲ.農業・農村の強靱化）が掲げられた。

政策課題Ⅱの「多様な人が住み続けられる農村の振興」の実現に向けては、政策目標（所得と雇用機会の確保、農村に人が住み続けるための条件整備、農村を支える新たな動きや活力の創出）を掲げ、中山間地域等の地域の特色を活かした基盤整備と生産・販売施設等の整備との一体的推進、施設等の整備を通じた省力化により多様な働き方を実現する農村の働き方改革の推進を実施することとしている。

イ 本県内の状況

「いわて県民計画2019～2028」において、農業農村整備事業では、収益力の高い農林水産業を実現するため、水田の大区画化や排水改良、農業水利施設の長寿命化対策など、生産基盤の整備を着実に推進することとしている。

また、「いわて農業農村整備の展開方向（2019～2022）」においては、「地域の特性に応じた収益力の高い農業の実現」を重点施策の一つに位置付け、①水田の大区画化と汎用化、②ほ場整備を契機とした担い手への農地集積、③畑地かんがい施設の整備、④中山間地域における地域の特性に応じた基盤整備を推進することとしている。

ウ 施工地域における状況

本地区は、事業導入を契機に、生産基盤条件を改善するとともに、担い手である集落営農組織赤猪子営農組合等への農地の利用集積を促進し、農業経営の効率化を図ることとしている。また、畜産農家との連携によるWC S (ホールクローブサイレージ)の生産を増やすほか、余剰労働力を産地直売所（南沢等）向けの農産物（小菊、きゅうりなど）の生産拡大に活用することにより、地区全体としての農業利益の増大や活性化を目指している。

一関市から、本地区の整備促進について要望が出されている他、本事業は、「一関農業振興地域整備計画」や「一関市農業農村整備事業管理計画」など、各種農業施策との整合が図られている。

○中項目評価は、全国又は本県において、政策や事業の在り方についての議論や見直しがないことから、「a」とした。

| | | | |
|-------|-----|---|---|
| 中項目評価 | (a) | b | c |
|-------|-----|---|---|

(2) 事業に関する評価指標の推移

| 評価指標 | | 配点 ※ | 事業着手時 評点(A) | 再評価時 評点(B) | 増減 (B)-(A) | 備考 |
|------|-------------------|-----------|---------------------|--------------------|---------------|--|
| 必要性 | 米主産地度（市町村） | 10 (-) | 10 (5項目) | - | -10 | (平成29年度までの評価指標) ①1等米比率③特別栽培米比率④担い手の水稲作付面積⑤結びつき数量⑥地域振興推移量 |
| | 水田の生産性（市町村） | - (10) | - | 5 (1項目) | 5 | (平成30年度からの評価指標) ①1等米比率が県平均以上 |
| | 特定地域振興 | 10 | 10 (2項目) | 10 (2項目) | 0 | 過疎、振興山村 |
| | 農地の傾斜率 | 5 | 4 (1/50) | 4 (1/50) | 0 | 平均傾斜度 1/50 |
| 重要性 | 地域振興計画等の整合性 | 5 | 5 (4項目) | 5 (4項目) | 0 | ①市発展計画の登載②市農振計画との整合③市奨励作物④事業管理計画 |
| | 認定農業者の目標達成率 | 10 (-) | 8 (86.60%) | - | -8 | (平成29年度までの評価指標) |
| | 中心経営体に占める認定農業者の割合 | - (10) | - | 2 (48.4%) | 2 | (平成30年度からの評価指標) |
| 緊急性 | 他事業との関連 | 5 | 0 (なし) | 0 (なし) | 0 | |
| | 営農上の緊急性 | 5 | 5 (7項目) | 5 (7項目) | 0 | ①耕作道幅員不足②畦畔低い③排水機能不備により湿田化④排水路断面不足⑤用水の漏水⑦施設の維持管理増加傾向⑧耕作放棄地増加傾向 |
| | 耕作放棄地率 | 10 | 8 (6.9%) | 10 (8.9%) | 2 | 一関市の耕作放棄地率 |
| 効率性 | 費用便益比 (B/C) | 10 | 10 (1.41) | 10 (1.35) | 0 | |
| | 10aあたり事業費 | 10 | 10 (1,815千円/10a) | 4 (2,445千円/10a) | -6 | 3,965百万円/162.2ha |
| 熟度 | 同意率 | 10 | 7.5 (98.2%) | 10 (99.1%) | 2.5 | 事業着手時：調査同意 再評価時：R2計画変更(区)R3計画変更(用) 99.1% (215名/217名) |
| | 推進組織の活動状況 | 5 | 3.75 (積極的) | 3.75 (積極的) | 0 | ・推進組織がある ・積極的な推進活動 |
| | 市町村の支援体制 | 5 | 3.75 (積極的) | 3.75 (積極的) | 0 | ・ガイドライン通りの負担 ・説明会にはほぼ参加 ・支援体制が明確 |
| 計 | | 100 | 85.00 | 72.50 | -12.50 | (再評価時/採択時) 85.3% |

※ 配点の上段は事業着手時点、下段は再評価時。

○ 費用便益分析

費用便益分析手法：新たな土地改良の効果算定マニュアル（2015年9月）
 基準年：令和3年度

（単位：百万円）

| 区 分 | | 事業着手時 (基準年：H24) | 再評価時 (基準年：R3) |
|---------|-------------|--------------------|------------------|
| 費用項目 | 当該事業による費用 | 2,210 | 4,060 |
| | その他費用 | 182 | 174 |
| | 総費用（現在価値化） | 2,392 | 4,234 |
| 便益項目 | 作物生産 | 1,016 | 1,839 |
| | 営農経費節減 | 2,463 | 3,978 |
| | 維持管理費節減 | △ 102 | △ 327 |
| | その他 | 0 | 241 |
| | 総便益額（現在価値化） | 3,377 | 5,731 |
| 総費用総便益比 | | 1.41 | 1.35 |

○ 関連する開発プロジェクト等の状況

特になし

○中項目評価は、各評価指標の評点の合計が、事業着手時の85.3%であることから、「b」とした。

| | | | | | |
|-------|---|---|---|---|---|
| 中項目評価 | a | . | b | . | c |
|-------|---|---|---|---|---|

(3) 自然環境等の状況及び環境配慮事項

ア 動植物、地形・地質、歴史文化、景観等の状況及び岩手県自然環境保全指針による保全区分

・岩手県自然環境保全指針による保全区分

D

・希少野生動植物生息の有無

あり

県レッドデータブックA・B・C・Dが該当

・埋蔵文化財包蔵地の有無

あり

埋蔵文化財包蔵地5箇所（松原館遺跡、栃倉館遺跡、加持屋館遺跡、小山館遺跡、南沢遺跡）があり、着工前に岩手県教育委員会と確認・協議を行ったうえで工事を進めている。

イ 環境配慮事項及び環境等への配慮に要する事業費

・振興局公共事業等に係る希少野生動植物調査検討委員会への付議状況

付議している

①主な助言内容

・施工区域内に確認された希少野生動植物については、施工前に生育に適した場所に移動・移植を行うことの助言があった。

②対応状況

・有識者の指導のもと、希少野生動植物の引っ越し先を新たに設置、或いは生息適地に移植するなど適切に対応した。

・工事にあたっては、排出ガス対策型建設機械の使用による大気汚染（温暖化）防止や、再生資材（砕石）の積極的な使用による資源の有効活用に努めている。

《環境等への配慮に要する経費》

再生砕石を使用（15,703千円）

○中項目評価は、自然環境保全指針の「優れた自然」の保全区分毎の保全方向に沿って積極的な対応をしていることから、「a」とした。

| | | | | | |
|-------|---|---|---|---|---|
| 中項目評価 | a | . | b | . | c |
|-------|---|---|---|---|---|

○中項目評価が「a」、「b」、「a」であることから、大項目評価は「A」とした。

| | | | | | | | |
|-----|----|---|---|---|---|---|---|
| 評 価 | AA | . | A | . | B | . | C |
|-----|----|---|---|---|---|---|---|

社
会
経
済
情
勢
等
の
変
化

(1) コスト削減対策の実施状況及び今後の可能性

- ・再生砕石の利用
【削減額：2,681千円】

(2) 代替案立案の可能性

- ①代替案として考えられる他の事業手法・工法の比較検討結果
農業の生産条件が不利な中山間地域の活性化を目的に、水田の区画整理や水路などの農業生産基盤を整備する事業は本事業だけである。
- ②今後における代替案立案の可能性
現時点で予想される今後の変化はないため、代替案立案の可能性はない。

(1) 総合評価

| | |
|-----------------|---|
| 総合評価 (対応方針案) | <div style="display: flex; justify-content: space-around; align-items: center;"> <div style="border: 1px solid black; border-radius: 50%; padding: 5px;">事業継続</div> ・ <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;">要検討</div> ・ <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;">中止</div> </div> <p style="text-align: center; font-size: small;">(事業継続、見直し継続、休止、中止)</p> |
|-----------------|---|

(事業名) 中山間地域総合整備事業 (生産基盤) 市野々地区

| 着手年度 | 完了予定年度 | 事業費 (百万円) | 投資 事業費 (百万円) | 進捗率 (%) | (1) 事業進捗状況 | | | (2) 社会経済情勢 | | | 参考 | | |
|------|--------|--------------|--------------------|------------|------------|----------|---|------------|----------|----------|----|-------|------|
| | | | | | 進捗 状況 | 計画 変更 | | 社会 経済 | 評価 指標 | 自然 環境 | 評点 | B/C | |
| H25 | R7 | 3,965 | 3,507 | 88.4% | BB | b | b | A | a | b | a | 72.50 | 1.35 |

○総合評価に係るコメント

- ・「事業の進捗状況等」については、「工事の遅延」はあるものの、今後は計画的な事業進捗が見込まれること、「社会経済情勢等の変化」については、「事業に関する社会経済情勢」「自然環境等の状況」に関して大きな変化が見られないことから、「事業継続」と判断したものである。

(2) 要検討、中止の場合の対応

※評価対象事業の位置図、計画平面図、標準横断図等を添付のこと。

中山間地域総合整備事業(生産基盤) 市野々地区計画 概要図

区画整理後のほ場での田植えの様子(外山工区)



区画整理後のほ場でのWCS収穫の様子(赤猪子工区)



ほ場整備前(外山工区)



写真①

ほ場整備後(外山工区)



写真①

用排水路整備前(馬場工区)



写真②

用排水路整備後(馬場工区)



写真②

| 凡例 | | |
|----|-------|----------|
| | 区画整理 | A=86.5ha |
| | 用排水整備 | A=75.7ha |

| | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
|--|---|-----------------------------------|-----------------------------------|--------------------------------------|--------------------------|----------------------------|------------------------------|------|-------|--------------|-----|--------|-----|--------------------------------------|------|----------|----------|--------|-----------|
| 事業名 | 農道整備事業 | 補助 | 単独 | 担当部課名 | 農林水産部農村建設課 | | | | | | | | | | | | | | |
| 路線名等 | — | 地区名 | うわの 上野 2 期 | 市町村 | 二戸郡一戸町 | | | | | | | | | | | | | | |
| 〔事業根拠法令等：土地改良法〕 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 事業概要 | <p>(1) 事業目的</p> <p>○解決すべき課題 本地区は、一戸町中心部から約1km東側に位置する、畑作経営が盛んな地域で、野菜や果樹等の作付けが行われている。 しかし、生産出荷活動の重要な基盤である農道が十分に整備されていないため、農産物及び生産資材等の運搬に多くの輸送時間を要しており、農業生産性向上の大きな障害となっている。</p> <p>○整備によって得られる効果 本地区は、複数の農業団地を南北に縦断し、主要地方道一戸山形線に連絡する基幹農道を整備することにより、農産物流通と通作交通の合理化や生活環境の改善を図り、地域農業・農村の振興に寄与するものである。</p> <p>(2) 事業内容 計画延長 L=2,902m (車道幅員：W=4.0 (5.0) m)</p> <p>(3) 整備目標等 「いわて農業農村整備の展開方向」(2019～2022) 基幹農道の保全対策整備延長 2017年：12.7km→2022年：19.4km</p> | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | 事業着手 | H25 | 事業計画期間 | H25年～R8 H30 | 再評価時全体計画期間 (当初全体計画期間) | 用地着手 | H26年度 | 工事着手 | H26年度 | | | | | | | | | | |
| | 事業費 | 当初計画時 総事業費 (H25) (うち用地費) | 再評価時 総事業費 (R4) A (うち用地費) | 事業費の状況 [百万円] | | | | | | | | | | | | | | | |
| | | 856.0 (37.1) | 1,025.5 (37.1) | H25年～ R2年 B | R3年 C | R4年 D | 投資事業費 E=B+C+D | 財源 | | 進捗率 F=E/A | | | | | | | | | |
| | | | 199.1 (7.1) | 17.3 (0.0) | 10.0 (3.0) | 226.4 (10.1) | 国庫 113.2 県 113.2 他 0.0 | | 22.1% | | | | | | | | | | |
| 事業の進捗状況等 | <p>(1) 事業の進捗状況</p> <p>ア 整備効果の発現状況 計画延長2,902mのうち、令和3年度末までに道路路盤までの改良工748mを施工し、供用の開始により、農業用車両の通行が可能となるなど、部分的に事業効果の発現が図られている。</p> <p>イ 未着工及び工事遅延等の理由並びに解決の見通し</p> <p>①工事遅延理由： 当初計画路線の実施段階において、起点部の地すべり防止区域内における詳細設計を行ったところ、事業費が増大であることが判明し、工法検討及び関係する地質調査に想定以上の時間を要したことから、工事着手が遅延したもの。また、厳しい公共事業費による工程の見直しが生じたこと。</p> <p>②解決の見通し： 地すべり防止区域内において、現道を拡幅利用する路線に見直したことにより道路設計について解決しており、道路整備の実施が可能である。 今後は計画的な予算確保により着実に工事進捗が図られ、令和8年度に完了する見込み。</p> <p>○中項目評価は、事業を阻害する要因はあったが、解決できる見通しが立っており、今後は計画的な進捗が見込まれることから「b」とした。</p> | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | <p>(2) 事業計画の変更の有無及び内容</p> <p>①変更内容</p> <ul style="list-style-type: none"> ・道路工延長の増 (2,672m→2,902m) ・事業期間の延伸 (6年→14年) <p>②「b」と判断した理由</p> <p>○中項目評価は、事業計画の変更はあるものの、土地改良法上、変更内容が「軽微な変更」に当たることから、「b」とした。</p> | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | <table border="1" style="margin:auto;"> <tr> <td>中項目評価</td> <td>a . b . c</td> </tr> </table> | | | | | 中項目評価 | a . b . c | | | | | | | | | | | | |
| | 中項目評価 | a . b . c | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| <table border="1" style="margin:auto;"> <tr> <td></td> <td>変更前</td> <td>変更後</td> <td>増減</td> <td>備考</td> </tr> <tr> <td>総事業費</td> <td>856</td> <td>1025.5</td> <td>170</td> <td>・自然増:134 ・事業量変更:207 ・工法変更:▲171</td> </tr> <tr> <td>道路延長</td> <td>L=2,672m</td> <td>L=2,902m</td> <td>L=230m</td> <td>路線の見直しによる</td> </tr> </table> | | | | | | 変更前 | 変更後 | 増減 | 備考 | 総事業費 | 856 | 1025.5 | 170 | ・自然増:134 ・事業量変更:207 ・工法変更:▲171 | 道路延長 | L=2,672m | L=2,902m | L=230m | 路線の見直しによる |
| | 変更前 | 変更後 | 増減 | 備考 | | | | | | | | | | | | | | | |
| 総事業費 | 856 | 1025.5 | 170 | ・自然増:134 ・事業量変更:207 ・工法変更:▲171 | | | | | | | | | | | | | | | |
| 道路延長 | L=2,672m | L=2,902m | L=230m | 路線の見直しによる | | | | | | | | | | | | | | | |
| <table border="1" style="margin:auto;"> <tr> <td>中項目評価</td> <td>a . b . c</td> </tr> </table> <p>○中項目評価が「b」、「b」であることから、大項目評価は「BB」とした。</p> | | | | | 中項目評価 | a . b . c | | | | | | | | | | | | | |
| 中項目評価 | a . b . c | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| <table border="1" style="margin:auto;"> <tr> <td>評価</td> <td>AA . A . BB . B . C</td> </tr> </table> | | | | | 評価 | AA . A . BB . B . C | | | | | | | | | | | | | |
| 評価 | AA . A . BB . B . C | | | | | | | | | | | | | | | | | | |

(1) 事業に関する社会経済情勢

ア 全国の状況

令和3年3月に、「土地改良長期計画」（計画期間：令和3～7年度）が閣議決定され、「持続的に発展する農業と多様な人が住み続けられる農村の実現」を基本理念とし、3つの政策課題（Ⅰ.生産基盤の強化による農業の成長産業化、Ⅱ.多様な人が住み続けられる農村の振興、Ⅲ.農業・農村の強靱化）が掲げられた。

政策課題Ⅱの「多様な人が住み続けられる農村の振興」の実現に向けては、政策目標（所得と雇用機会の確保、農村に人が住み続けるための条件整備、農村を支える新たな動きや活力の創出）を掲げ、農業集落排水施設の省エネルギー化、集落道の強靱化等により、関係人口の創出・拡大の促進を図ることとしている。

イ 本県内の状況

平成31年3月に県が公表した「いわて県民計画（2019～2028）」において、「農業農村整備事業の推進」として、生産コストの低減や畑作物等の生産拡大を図るため、水田の大区画化や排水改良など農業生産基盤の計画的な整備及び中山間地域における生産基盤の整備を推進することとしている。また、「いわて農業農村整備の展開方向（2019～2022）」では、「快適で活力ある農村づくり」として、農道や農業集落排水施設の保全管理による快適な生活環境の維持・増進を図っていくこととしている。

ウ 施工地域における状況

・一戸町では、基幹産業である農業の振興を図るため「一戸町農業振興地域整備計画」（昭和49年策定・最新版：令和2年4月）を策定しており、町北部においてはトマト等の野菜栽培を中心に集約複合型の営農の推進や、区画整理や農道などの基盤整備を計画的に進めていくこととしている。

・本地区は、この地域の農産物や生産資材等の運搬をはじめとした農産物流通、農業生産活動などの農業用の利用を主体とし、併せて農村の社会生活活動に利用される農道を造成するものであり、事業に対する地域の期待は高く、一戸町からも早期完成が望まれている。

○中項目評価は、全国又は本県において、政策や事業の在り方についての議論や見直しがないことから、「a」とした。

中項目評価 (a) . b . c

(2) 事業に関する評価指標の推移

| 評価指標 | | 配点 ※ | 事業着手時 評点(A) | 再評価時 評点(B) | 増減 (B)-(A) | 備考 | |
|------|------------------------|------------|----------------|---------------|---------------|--|-----------------|
| 必要性 | 生活環境整備率（市町村） | 10 (10) | 6 54.30% | 6 55.90% | 0 | 集落道整備率 | |
| | 特定地域振興 | 10 (10) | 10 過疎地域 | 10 過疎地域 | 0 | 過疎地域 | |
| 重要性 | 地域振興計画等との整合性 | 15 (15) | 15 3項目 | 15 3項目 | 0 | ①一戸町過疎地域持続的発展計画、②一戸町農業振興地域整備計画、③農業農村整備事業管理計画 | |
| | 認定農業者の目標達成率 | 5 (-) | 3 78.3% | - | -3 | | (平成29年度までの評価指標) |
| | 中心経営体に占める認定農業者の割合（市町村） | - (5) | - - | 2 63.10% | 2 | | (平成30年度からの評価指標) |
| 緊急性 | 関連事業の有無 | 10 (10) | 5 あり（普通） | 5 あり（普通） | 0 | 農免農道整備事業上野1期地区 | |
| | 高齢化の進行度（市町村） | 10 (10) | 8 34.6% | 10 43.5% | 2 | | |
| 効率性 | 費用便益比（B/C） | 10 (10) | 5 1.04 | 2.5 1.02 | -2.5 | | |
| | 延長あたり農地面積 | 10 (10) | 4 2.9a | 4 2.8a | 0 | 138ha/4980m=2.8a | |
| 熟度 | 同意率 | 10 (10) | 5 91.9% | 5 91.3% | 0 | 1125同意91.3%（282/309） | |
| | 推進組織の活動状況 | 5 (5) | 2.5 普通 | 2.5 普通 | 0 | ・二戸地域農林水産振興協議会 ・定期的に協議会を開催 | |
| | 市町村の支援体制 | 5 (5) | 3.75 積極的 | 3.75 積極的 | 0 | ・ガイドライン通りの負担 ・説明会への参加 ・町の担当部署が明確 | |
| 計 | | 100 | 67.25 | 65.75 | -1.5 | 再評価時/事業着手時 98% | |

※ 配点の上段は事業着手時点、下段は再評価時。

社会
経済
情勢
等
の
変
化

○ 費用便益分析

費用便益分析手法：新たな土地改良の効果算定マニュアル（2015年9月） 基準年：令和3年度
（単位：百万円）

| 区 分 | | 事業着手時 (基準年：H24) | 再評価時 (基準年：R3) |
|--------------|--------------|--------------------|------------------|
| 費用項目 | 当該事業による費用 | 2,172 | 3,253 |
| | その他費用 | 118 | 247 |
| | 総費用（現在価値化） | 2,290 | 3,500 |
| 便益項目 | 品質向上 | 155 | 251 |
| | 維持管理費節減 | △ 77 | △ 55 |
| | 営農に係る走行経費 | 1,774 | 2,738 |
| | 一般交通等経費節減 | 537 | 649 |
| | 文化財の調査に関する効果 | 1 | 0 |
| | 総便益額(B) | 2,390 | 3,583 |
| 総費用総便益比(B/C) | | 1.04 | 1.02 |

○ 関連する開発プロジェクト等の状況

特になし

○中項目評価は、各評価指標の評点の合計が、事業着手時の98%であることから、「a」とした。

中項目評価 (a) . b . c

(3) 自然環境等の状況及び環境配慮事項

ア 動植物、地形・地質、歴史文化、景観等の状況及び岩手県自然環境保全指針による保全区分

- ・岩手県自然環境保全指針による保全区分 C
- ・希少野生動植物生息の有無 あり 県レッドデータブックB・C・Dが該当
- ・埋蔵文化財包蔵地の有無 あり

起点側に埋蔵文化財包蔵地3箇所（古里遺跡、古里Ⅱ遺跡、下村向遺跡）があり、着工前に岩手県教育委員会と確認・協議を行ったうえで、工事を進めていく。

イ 環境配慮事項及び環境等への配慮に要する事業費

- ・振興局公共事業等に係る希少野生動植物調査検討委員会への付議状況 付議している

①主な助言内容

・委員会において希少種の存在が報告されており、委員から「工事着手前に生息適地に移動させること」との助言があった。

②対応状況

- ・希少動植物については、当該年度の工事実施範囲について着手前に調査し、生息が確認された場合は生息適地に移動することとしている。
- ・工事にあたっては、排出ガス対策型建設機械の使用による大気汚染（温暖化）防止や、再生資材（アスファルト、砕石）の積極的な使用による資源の有効活用に努めている。

《環境等への配慮に要する経費》

- ・再生AS合材や再生砕石を使用（34,071千円）

○中項目評価は、自然環境保全指針の「優れた自然」の保全区分毎の保全方向に沿って積極的な対応をしていることから、「a」とした。

中項目評価 (a) . b . c

○中項目評価が「a」、「a」、「a」であることから、大項目評価は「AA」とした。

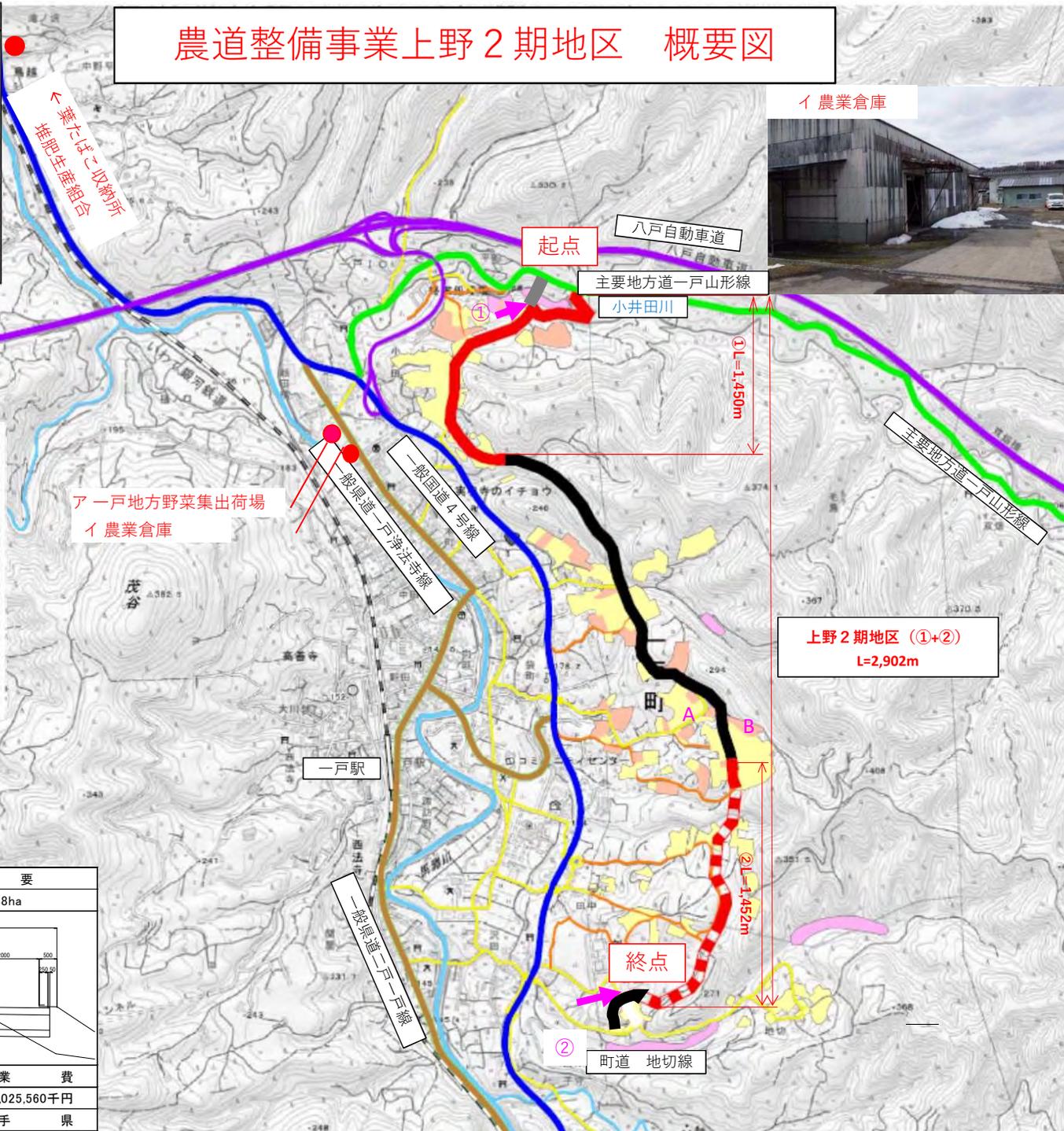
評 価 AA ・ A ・ B ・ C

| | |
|--------------------|---|
| コスト削減対策及び代替案立案の可能性 | <p>(1) コスト削減対策の実施状況及び今後の可能性</p> <ul style="list-style-type: none"> 再生資源の活用による削減額【3,600千円】 合計 3,600千円 <p>(2) 代替案立案の可能性</p> <p>①代替案として考えられる他の事業手法・工法の比較検討結果 本事業は、農業生産物流通の効率化を図るため、農道の新設や改良を行うものであり、農業用車両の通行に係る走行経費の低減及び安全性確保などに寄与するのは、本事業のみである。</p> <p>②今後における代替案立案の可能性 現時点で予想される今後の変化はないため、代替案立案の可能性はない。</p> |
|--------------------|---|

| 総合評価 | (1) 総合評価 | <table border="1" style="width: 100%; text-align: center;"> <tr> <td style="width: 20%;">総合評価 (対応方針案)</td> <td style="width: 20%; border: 2px solid black;">事業継続</td> <td style="width: 20%;">要検討</td> <td style="width: 20%;">中止</td> </tr> <tr> <td colspan="4" style="font-size: small;">(事業継続、見直し継続、休止、中止)</td> </tr> </table> <p>(事業名)農道整備事業上野2期地区</p> <table border="1" style="width: 100%; text-align: center; font-size: small;"> <thead> <tr> <th rowspan="2">着手年度</th> <th rowspan="2">完了予定年度</th> <th rowspan="2">事業費 (百万円)</th> <th rowspan="2">投資 事業費 (百万円)</th> <th rowspan="2">進捗率 (%)</th> <th colspan="3">(1)事業進捗状況</th> <th colspan="3">(2)社会経済情勢</th> <th colspan="2">参考</th> </tr> <tr> <th>進捗 状況</th> <th>計画 変更</th> <th></th> <th>社会 経済</th> <th>評価 指標</th> <th>自然 環境</th> <th>評点</th> <th>B/C</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>H25</td> <td>R8</td> <td>1,025.5</td> <td>226.4</td> <td>22.1%</td> <td>BB</td> <td>b</td> <td>b</td> <td>AA</td> <td>a</td> <td>a</td> <td>a</td> <td>65.75</td> <td>1.02</td> </tr> </tbody> </table> <p>○総合評価に係るコメント</p> <ul style="list-style-type: none"> 「事業の進捗状況等」については、工事の遅延はあるものの、今後は計画的な事業進捗が見込まれること、また、「社会経済情勢等の変化」については、大きな変化が見られないことから、「事業継続」と判断したものである。 | | | | | | | | | | 総合評価 (対応方針案) | 事業継続 | 要検討 | 中止 | (事業継続、見直し継続、休止、中止) | | | | 着手年度 | 完了予定年度 | 事業費 (百万円) | 投資 事業費 (百万円) | 進捗率 (%) | (1)事業進捗状況 | | | (2)社会経済情勢 | | | 参考 | | 進捗 状況 | 計画 変更 | | 社会 経済 | 評価 指標 | 自然 環境 | 評点 | B/C | H25 | R8 | 1,025.5 | 226.4 | 22.1% | BB | b | b | AA | a | a | a | 65.75 | 1.02 |
|------------------|--------------------|--|--------------------|------------|-----------|----------|---|-----------|----------|----------|----|-----------------|------|-----|----|--------------------|--|--|--|------|--------|--------------|--------------------|------------|-----------|--|--|-----------|--|--|----|--|----------|----------|--|----------|----------|----------|----|-----|-----|----|---------|-------|-------|----|---|---|----|---|---|---|-------|------|
| | 総合評価 (対応方針案) | 事業継続 | 要検討 | 中止 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | (事業継続、見直し継続、休止、中止) | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 着手年度 | 完了予定年度 | 事業費 (百万円) | 投資 事業費 (百万円) | 進捗率 (%) | (1)事業進捗状況 | | | (2)社会経済情勢 | | | 参考 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | | | | | 進捗 状況 | 計画 変更 | | 社会 経済 | 評価 指標 | 自然 環境 | 評点 | B/C | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| H25 | R8 | 1,025.5 | 226.4 | 22.1% | BB | b | b | AA | a | a | a | 65.75 | 1.02 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| (2) 要検討、中止の場合の対応 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |

※評価対象事業の位置図、計画平面図、標準横断図等を添付のこと。

農道整備事業上野2期地区 概要図



| 凡 例 | |
|-----|-----------|
| --- | 市 町 村 界 |
| — | 計画路線(改良) |
| — | 計画路線(新設) |
| — | 計画路線(既設) |
| — | 国 道 |
| — | 一 般 県 道 |
| — | 主 要 地 方 道 |
| — | 市 町 村 道 |
| ■ | 受 田 |
| ■ | 畑 |
| ■ | 樹園地 |
| ■ | 地 其他 |

| 事業概要 | |
|-------|-------------|
| 受益面積 | 138ha |
| 標準断面図 | |
| 事業量 | 2,902m |
| 事業費 | 1,025,560千円 |
| 事業主体 | 岩手県 |



上野2期地区 (①+②)
L=2,902m



公共事業 再評価調書

| | | | | | | | | | | | |
|--|---|---|--|------------------------------|-------------|-------|---|---|----|----------------|----------------------------------|
| 事業名 | 林道整備事業 | | 補助・単独 | 担当部課名 | 農林水産部 森林保全課 | | | | | | |
| 路線名等 | しんりんかんりどう 森林管理道 | やぎたまかわせん 八木玉川線 | 地区名 | — | 市町村 | 洋野町 | | | | | |
| 事業概要 | 〔事業根拠法令等： 森林法第4条〕 | | | | | | | | | | |
| | (1) 事業目的 ○解決すべき課題や事業目的 森林管理道八木玉川線は、九戸郡洋野町種市地内に位置し、起点を町道岡谷線、終点を県道明戸種市線に連絡して事業実施している。 当路線の利用区域内の森林は、町内の他地域より比較的人工林率が高いものの、林内路網の整備が遅れており、間伐など森林整備の推進に支障となっている。 本事業は、造林・保育・素材生産等の森林施業の効率化や山村地域の振興を図るとともに、健全な森林を育成するための森林整備の基盤となる林道を整備するものである。 ○整備によって得られる効果 林内路網の幹線となる林道が整備されることで、森林施業の低コスト化が図られることから、効率的で適切な森林整備の促進により木材の安定供給や、水源涵養、県土の保全等森林の多面的機能の持続的な発揮が期待される。 | | | | | | | | | | |
| | (2) 事業内容 全体計画延長9,537m、幅員4.0m (5.0m)、全体事業費1,190,000千円 | | | | | | | | | | |
| | (3) 整備目標等 林内道路密度 (R16末) 17.5m/ha (洋野町) ※参考 (R3末現在) 17.5m/ha (洋野町) | | | | | | | | | | |
| | 事業着手 | H20年度 | 事業計画期 | H20 | ～ | R4 | 再評価時全体計画期間 R6 再評価時全体計画期間 H27 (当初全体計画期間) | | | | |
| 事業費 | 事業費の状況 [百万円] | | | | | | | | | | |
| | 当初計画 総事業費 (H20年) (うち用地費) | 前回 再評価時 総事業費 (H29年) (うち用地費) | 今回 再評価時 総事業費 (R4年) A (うち用地費) | 投資事業費 E=B+C+D | | | 進捗率 F=E/A | | | | |
| | 1,150.0 (-) | 1,190.0 (-) | 1,190.0 (-) | B | R1 | C | R2 | D | R3 | 985.4 (-) | 財源 国庫 485.5 県 499.9 他 - |
| 事業の進捗状況等 | (1) 事業の進捗状況 | | | | | | | | | | |
| | ア 整備効果の発現状況 全体計画延長9,537mのうち、令和3年度末までに約8.5km (進捗率89.5%) が完成し、既に一部供用開始しており、間伐等の森林整備 (83.9ha) に利用されている。 | | | | | | | | | | |
| | イ 未着工及び工事遅延等の理由並びに解決の見通し ①理由 軟弱地盤帯を通過する路線形とならざるを得ず、対策工法の検討及び施工に時間を要することから全体計画期間の延長が必要となった。 ②解決の見通し 軟弱地盤対策工法について令和3年度までに検討を終了したことから、早期発注に取り組みながら、計画的に事業進捗を図ることで、期間内の竣工が見込まれる。 ○中項目評価は、軟弱地盤対策工法の検討及び施工に伴う計画期間の延長が生じたものの、一定の期間を延長することにより、竣工が見込まれることから「b」とした。 | | | | | | | | | | |
| | <table border="1" style="margin: auto;"> <tr> <td>中項目評価</td> <td>a</td> <td>.</td> <td>b</td> <td>.</td> <td>c</td> </tr> </table> | | | | | | 中項目評価 | a | . | b | . |
| 中項目評価 | a | . | b | . | c | | | | | | |
| (2) 事業計画の変更の有無及び内容 | | | | | | | | | | | |
| ①変更内容 | | | | | | | | | | | |
| 項目 | | 変更前 (再評価時) | | 変更後 (再々評価時) | | | | | | | |
| 計画期間 | | H20～R4 | | H20～R6 | | | | | | | |
| 道路工 | | 延長 L=9,538m 総事業費 1,190,000千円 | | 延長 L=9,537m 総事業費 1,190,000千円 | | | | | | | |
| ②「b」と判断した理由 ○中項目評価は、上記(1)イ①の理由による計画期間の変更であり、大幅な変更ではないため「b」とした。 | | | | | | | | | | | |
| <table border="1" style="margin: auto;"> <tr> <td>中項目評価</td> <td>a</td> <td>.</td> <td>b</td> <td>.</td> <td>c</td> </tr> </table> | | | | | | 中項目評価 | a | . | b | . | c |
| 中項目評価 | a | . | b | . | c | | | | | | |
| ○中項目評価が「b」、「b」で構成されていることから大項目評価は「BB」とした。 | | | | | | | | | | | |
| 評価 | | AA・A・BB・B・C | | | | | | | | | |

(1) 事業に関する社会経済情勢

ア 全国の状況

・国では、令和3年6月に、新たな「森林・林業基本計画」を公表し、森林・林業・木材産業によるグリーン成長などの方向性が盛り込まれた。
 ・この中で、林産物の供給及び利用に関して、令和元年度に3,100万m³の実績であった国産材の供給量を、令和7年に4,000万m³、令和12年に4,200万m³とすることを目標に掲げており、引き続き、傾斜区分と作業システムに応じた目標とすべき路網密度の水準を踏まえつつ、林道等の路網整備を推進することとしている。

イ 本県の状況

・県では、計画的な林道整備を推進するため、実効性の高い中期的なアクションプランとして令和元年度に「林道整備事業中期実施計画」を策定し、年間10kmの林道整備を目標に、路網密度の向上に向けて事業実施路線の早期完成に取り組んでいる。
 ・国が示している「林道整備における路網密度の水準」では、本県が目安としている中傾斜地（林地斜面の傾斜角15～30度）での林道等の林内道路密度が25～40m/haとされているが、本県の林内道路密度は令和2年度末時点で16.7m/haであるため、目指すべき水準への到達に向け、路網整備の一層の推進が必要となっている。
 ・また、県内では、東日本大震災津波で被災した製材・合板工場の復旧により建築用材の需要が回復傾向にある中、近年は、県内はもとより近県においても木質バイオマス発電施設の整備が進み、燃料用素材の需要が増大していることから、木材の安定供給体制の整備に向け、木材生産の基盤である林道等の路網整備が急務となっている。

ウ 施工地域における状況

・本路線の利用区域においては、計画当初からの年数の経過により、人工林のうち森林整備が必要とされる50年生以下の林分が約51.6%（297.1ha）となっている一方、51年生以上の成熟した林分の面積の割合が増加しており、木材生産等に向けた林道等の整備が急務となっている。
 ・本路線が位置する地域は、洋野町はもとより久慈市内の製材工場からの距離が約30kmと近いことや、広葉樹をしいたけ・木炭の原木として積極的に活用している地域であるなど、森林資源を有効に利用できる条件が整っている。

○中項目評価は、全国又は県内において、林道事業に係る政策や事業のあり方についての議論や見直しの検討がないため「a」とした。

中項目評価 a . b . c

(2) 事業に関する評価指標の推移

| 評価指標 | 配点 | 事業着手時 評点 | 再評価時 評点(A) | 再々評価時 評点(B) | 増減 (B)-(A) | 備考 |
|------|---------------|----------------------|-----------------|-----------------|---------------|-----------------------|
| 必要性 | 林業効果指数 | 5 5.94 | 5 8.54 | 5 8.64 | 0 | |
| | 利用区域 森林面積 | 5 549ha | 5 594ha | 5 594ha | 0 | |
| | 定住環境 | 5 0項目 | 0 0項目 | 0 0項目 | 0 | |
| | 要整備森林の 占有度 | 10 6 32% | 6 21% | 4 17% | -2 | 99.4/594×100 ≒17% |
| | 地域振興 | 5 3 1地区 | 5 2地区 | 5 2地区 | 0 | 過疎地域 山村振興地域 |
| 重要性 | 林内路網密度 | 5 4 27m/ha | 4 25m/ha | 4 25m/ha | 0 | 15,000/594 ≒25m/ha |
| | 基幹的路線 | 5 4 連絡線形(基幹道路) | 4 連絡線形(基幹道路) | 4 連絡線形(基幹道路) | 0 | |
| | 作業道の 整備状況 | 5 3路線 | 5 3路線 | 5 3路線 | 0 | |
| | 山地保全 | 5 5 0% | 5 0% | 5 0% | 0 | |
| 緊急性 | 防災対策 | 5 2項目以上 | 5 2項目以上 | 5 2項目以上 | 0 | 公道の迂回路 防火線 |
| | 利用計画 | 5 2項目以上 | 3 1項目以上 | 5 2項目以上 | 2 | 保育、間伐 |
| 効率性 | 費用便益比(B/C) | 30 1.51 | 30 1.80 | 20 1.39 | -10 | |
| 熟度 | 地元の協力体制 | 10 5 良い | 3 普通 | 5 良い | 2 | |
| 計 | | 100 82 | 80 | 72 | -8 | (再々評価時/再評価時) 90% |

○ 費用便益分析

費用便益分析手法： 林野公共事業における事業評価マニュアル (R3.6 林野庁) (単位：百万円)

| 区 分 | 事業着手時 | 再評価時 | 再々評価時 | |
|-------------|-------------|-----------|----------|---------|
| | (基準年：H20) | (基準年：H29) | (基準年：R4) | |
| 費用項目 | 全体事業費 | 972.0 | 1,645.8 | 1,904.2 |
| | ※維持管理費等を含む | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | 総 費 用 (C) | 972.0 | 1,645.8 | 1,904.2 |
| 便益項目 | 木材生産便益 | 456.0 | 757.7 | 1,138.1 |
| | 森林整備経費縮減等便益 | 355.0 | 957.8 | 358.1 |
| | 一般交通便益 | 204.0 | 56.8 | 51.1 |
| | 森林の総合利用便益 | 178.0 | 211.8 | 257.8 |
| | 災害等縮減便益 | 180.0 | 535.6 | 795.3 |
| | その他の便益 | 99.0 | 444.5 | 54.9 |
| | 総 便 益 (B) | 1,472.0 | 2,964.2 | 2,655.3 |
| 費用便益比 (B/C) | 1.51 | 1.80 | 1.39 | |

※費用便益分析において地域特性等考慮すべき特記事項

○中項目評価は、各評価指標の評点の合計が再評価時の90%以上であることから「a」とした。(90%)

○ 関連する開発プロジェクト等の状況

特になし

中項目評価 **a** . b . c

社
会
経
済
情
勢
等
の
変
化

(3) 自然環境等の状況及び環境配慮事項

ア 動植物、地形・地質、歴史文化、景観等の状況及び岩手県自然環境保全指針による保全区分

- ・岩手県自然環境保全指針による保全区分 **C**
- ・希少野生動植物生息の有無 **あり**
- ・埋蔵文化財包蔵地の有無 **なし**
- ・その他特記事項

イ 環境配慮事項及び環境等への配慮に要する事業費

- ・振興局公共事業等に係る希少野生動植物調査検討委員会への付議状況 付議している

①主な助言内容

事業計画区域内に希少植物が自生している可能性があるため、現地調査を行うよう助言があった。

②対応状況

委員と同行し現地調査を実施したが、希少種は確認されなかった。

③対応結果

希少種は確認されなかったことから事業を実施している。

《環境等への配慮に要する経費》

- ・間伐材を使用した木製構造物を施工 (28,680千円)
- ・再生砕石を使用 (55,499千円)

○中項目評価は、自然環境保全指針の「優れた自然」の保全区分毎の保全方向に沿って積極的な対応をしていることから「a」とした。

中項目評価 **a** . b . c

○中項目評価が「a」「a」「a」で構成されていることから、大項目評価については「AA」とした。

評 価 **AA** . A . B . C

| | |
|--------------------|--|
| コスト縮減対策及び代替案立案の可能性 | (1) コスト縮減対策の実施状況及び今後の可能性 |
| | <ul style="list-style-type: none"> ・ 構造物設置経費の縮減額 13,777千円 (擁壁工において、L形擁壁を採用) ・ 構造物設置経費の縮減額 13,946千円 (排水施設工において、L形側溝を採用) ・ 設計方法の見直し 16,975千円 (舗装工において摩耗層を廃止) ・ 再生資源の活用による縮減額 21,793千円 (路盤工において再生砕石を使用) ・ ライフサイクルコストの低減 834千円 (丸太伏工を採用し、維持管理費を低減) <p style="text-align: right;">計 67,325千円</p> |
| | (2) 代替案立案の可能性 |
| | <p>① 代替案として考えられる他の事業手法・工法の比較検討結果 線形について、事業申請者（町）及び地権者の要望を踏まえ、開設コスト等について比較検討し、現計画としたものである。</p> <p>② 今後における代替案立案の可能性 現計画は森林整備を実施する区域を通過する線形であることに加え、本路線を幹線とした効率的な路網の形成が可能である。また、本路線は公道と接続した地域の根幹となる幹線であり、災害時に代替路としての機能が確保されるとして、山村強靱化林道に位置づけられており、事業効果がより高い代替案の可能性はない。</p> |

| 総合評価 | (1) 総合評価 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
|--|--|---|---|--------------------|------------|--------------------|--------------|--------------------|------------|------------|-----|------------|------|------|------|------|------|----|-----|-----|----|-------|-------|-------|----|---|---|----|---|---|---|----|------|
| | <table border="1" style="width: 100%;"> <tr> <td style="width: 25%;">総合評価 (対応方針案)</td> <td style="width: 50%; text-align: center;"> <div style="border: 1px solid black; border-radius: 50%; padding: 5px; display: inline-block;">事業継続</div> </td> <td style="width: 25%; text-align: center;">要検討</td> <td style="width: 25%; text-align: center;">中止</td> </tr> <tr> <td colspan="4" style="text-align: center;">(事業継続、見直し継続、休止、中止)</td> </tr> </table> | 総合評価 (対応方針案) | <div style="border: 1px solid black; border-radius: 50%; padding: 5px; display: inline-block;">事業継続</div> | 要検討 | 中止 | (事業継続、見直し継続、休止、中止) | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | 総合評価 (対応方針案) | <div style="border: 1px solid black; border-radius: 50%; padding: 5px; display: inline-block;">事業継続</div> | 要検討 | 中止 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | (事業継続、見直し継続、休止、中止) | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | (事業名) 林道整備事業 八木玉川線 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th rowspan="2">着手年度</th> <th rowspan="2">完了予定年度</th> <th rowspan="2">事業費 (百万円)</th> <th rowspan="2">投資 事業費 (百万円)</th> <th rowspan="2">進捗率 (%)</th> <th colspan="2">(1) 事業進捗状況</th> <th colspan="3">(2) 社会経済情勢</th> <th colspan="2">参考</th> </tr> <tr> <th>進捗状況</th> <th>計画変更</th> <th>社会経済</th> <th>評価指標</th> <th>自然環境</th> <th>評点</th> <th>B/C</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>H20</td> <td>R6</td> <td>1,190</td> <td>985.4</td> <td>82.8%</td> <td>BB</td> <td>b</td> <td>b</td> <td>AA</td> <td>a</td> <td>a</td> <td>a</td> <td>72</td> <td>1.39</td> </tr> </tbody> </table> | 着手年度 | 完了予定年度 | 事業費 (百万円) | 投資 事業費 (百万円) | 進捗率 (%) | (1) 事業進捗状況 | | (2) 社会経済情勢 | | | 参考 | | 進捗状況 | 計画変更 | 社会経済 | 評価指標 | 自然環境 | 評点 | B/C | H20 | R6 | 1,190 | 985.4 | 82.8% | BB | b | b | AA | a | a | a | 72 | 1.39 |
| 着手年度 | | | | | | 完了予定年度 | 事業費 (百万円) | 投資 事業費 (百万円) | 進捗率 (%) | (1) 事業進捗状況 | | (2) 社会経済情勢 | | | 参考 | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | 進捗状況 | 計画変更 | 社会経済 | 評価指標 | 自然環境 | | | | | 評点 | B/C | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| H20 | R6 | 1,190 | 985.4 | 82.8% | BB | b | b | AA | a | a | a | 72 | 1.39 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| <p>○ 総合評価に係るコメント</p> <p>① 再評価の総括 「事業の進捗状況等」については、「事業計画の大幅な変更」がなく、今後も計画的に進捗が見込まれる状況であること、また、「社会経済情勢等の変化」については、効率的かつ安定的な林業生産活動を実現するための生産基盤として林道の必要性が高まっていることに加え、「評価指標」、「自然環境等の状況」に関して特に大きな変化が見られないことから「事業継続」と評価したものである。</p> | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |

② 特記事項
なし

(2) 要検討、中止の場合の対応

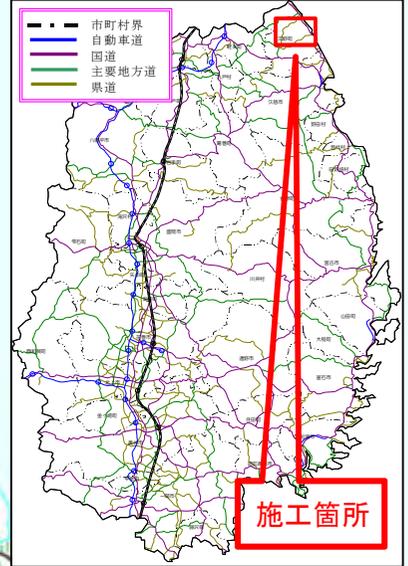
※評価対象事業の位置図、計画平面図、標準横断図等を添付のこと。

林道整備事業 八木玉川線 実施状況図 (1:25,000)

県道明戸種市線

E.P.

| 凡 例 | |
|-----|-------------|
| | 既設区間 |
| | 実施済区間 |
| | 計画区間 (R4以降) |
| | 利用区域 |
| | 保安林 |
| | 国有林 |
| | 官行造林 |
| | 経過道路 |



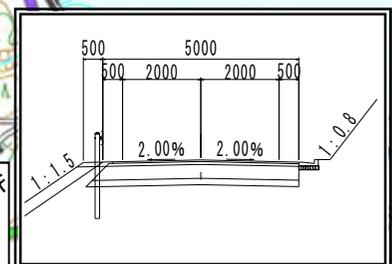
全体計画延長 L=9,537m

| 全体計画 | |
|------|-------------|
| 事業期間 | H20～R6 |
| 事業費 | 1,190,000千円 |
| 延長 | L=9,537m |
| 幅員 | W=4.0m |
| 利用区域 | A=594ha |

町道岡谷線

B.P.

標準断面図



「この地図の作成に当たっては、国土地理院長の承認を得て、同院発行の2万5千分の1地形図を使用した。(承認番号 平22使役、第214-26551号)」

公共事業 再評価調書

| | | | | | | | | | |
|--|---|--------------------------------|--------------------------------------|----------------------------|------------|------|--------------|------------------|----------------------------------|
| 事業名 | 林道整備事業 | 補助・単独 | 担当部課名 | 農林水産部 森林保全課 | | | | | |
| 路線名等 | しんりんかんりどう 森林管理道 ぼれいせん 甫嶺線 | 地区名 | — | 市町村 | 大船渡市 | | | | |
| 事業概要 | 〔事業根拠法令等：森林法第4条〕 | | | | | | | | |
| | <p>(1) 事業目的</p> <p>○解決すべき課題 森林管理道甫嶺線は大船渡市三陸町内に位置し、起点を林道今出甫嶺線、終点を県道大船渡綾里三陸線に連絡して事業実施している。 当路線の利用区域内の森林は、市平均の人工林率と同程度であるものの、10齢級以上の林地が84%を占め、特に森林の適切な更新が喫緊の課題である。 本事業は、造林・保育・素材生産等の森林施業の効率化や山村地域の振興を図るとともに、健全な森林を育成するための森林整備の基盤となる林道を整備するものである。</p> <p>○整備によって得られる効果 林内路網の幹線となる林道が整備されることで、森林施業の低コスト化が図られることから、効率的で適切な森林整備の促進により、木材の安定供給や、水源涵養、県土の保全等森林の多面的機能の持続的な発揮が期待される。</p> | | | | | | | | |
| | <p>(2) 事業内容</p> <p>全体計画延長5,600m、幅員3.0m (4.0m)、全体事業費900,000千円</p> | | | | | | | | |
| | <p>(3) 整備目標等</p> <p>林内道路密度 (R16末) 20.0m/ha (大船渡市) ※参考 (R3末現在) 18.0m/ha (大船渡市)</p> | | | | | | | | |
| 事業着手 | H25年度 | 事業計画期間 | H25 ~ R9 再評価時全体計画期間 (当初全体計画期間) | 用地着手 | H25年度 | 工事着手 | H25年度 | | |
| 事業費 | 当初計画総事業費 (H25年) (うち用地費) | 再評価時総事業費 (R4年) A (うち用地費) | 事業費の状況 [百万円] | | | | 進捗率 F=E/A | | |
| | 900.0 (-) | 900.0 (-) | H25~ | R1 | R2 | R3 | | 投資事業費 E=B+C+D | 財源 国庫 109.0 県 155.1 他 - |
| | | | B | C | D | E | | 264.1 (-) | |
| <p>(1) 事業の進捗状況</p> <p>ア 整備効果の発現状況 全体計画延長5,600mのうち、令和3年度末までに660m (進捗率11.7%) が完成し、既に一部供用開始しており、間伐等の森林整備 (4.43ha) に利用されている。</p> <p>イ 未着工及び工事遅延等の理由並びに解決の見通し</p> <p>①理由 全体計画調査の結果をもとに希少野生動植物調査検討委員会に諮ったところ、猛禽類調査を再度実施するよう指導があった。指導に従い再度調査を行ったところ、計画路線の起終点周辺にそれぞれ営巣木があり、希少猛禽類のペアが生息していることが確認された。このため、希少猛禽類の繁殖行動を考慮しつつ工事を実施する必要が生じ、事業進捗が著しく低下したものである。</p> <p>②解決の見通し 継続調査により、令和元年度に終点側で落巣を確認し、その後、巣の再建が見られなかったことから工事を再開している。また、起点側については、人工巣を計画路線の影響範囲外に設置し、誘導することとしている。誘導が完了した場合、2工区体制で工事を実施することが可能なことから、早期完了に向け取り組んでいく。</p> <p>○中項目評価は、希少猛禽類の影響により事業進捗が遅れているが、一定の期間を延長することにより、事業完了が見込まれることから「b」とした。</p> | | | | | | | | | |
| 中項目評価 a . b . c | | | | | | | | | |
| 事業の進捗状況等 | (2) 事業計画の変更の有無及び内容 | | | | | | | | |
| | ①変更内容 | | | | | | | | |
| | 項目 | 変更前 (事前評価時) | | | 変更後 (再評価時) | | | | |
| | 計画期間 | H25~R4 | | | H25~R9 | | | | |
| 道路工 | 延長 L=5,600m 総事業費 900,000千円 | | | 延長 L=5,600m 総事業費 900,000千円 | | | | | |
| ②「b」と判断した理由 | | | | | | | | | |
| ○中項目評価は、上記(1)イ①の理由による計画期間の変更であり、大幅な変更ではないため「b」とした。 | | | | | | | | | |
| 中項目評価 a . b . c | | | | | | | | | |
| ○中項目評価が「b」、「b」で構成されていることから大項目評価は「BB」とした。 | | | | | | | | | |
| 評価 AA . A . BB . B . C | | | | | | | | | |

(1) 事業に関する社会経済情勢

ア 全国の様況

・国では、令和3年6月に、新たな「森林・林業基本計画」を公表し、森林・林業・木材産業によるグリーン成長などの方向性が盛り込まれた。
 ・この中で、林産物の供給及び利用に関して、令和元年度に3,100万m³の実績であった国産材の供給量を、令和7年に4,000万m³、令和12年に4,200万m³とすることを目標に掲げており、引き続き、傾斜区分と作業システムに応じた目標とすべき路網密度の水準を踏まえつつ、林道等の路網整備を推進することとしている。

イ 本県の様況

・県では、計画的な林道整備を推進するため、実効性の高い中期的なアクションプランとして令和元年度に「林道整備事業中期実施計画」を策定し、年間10kmの林道整備を目標に、路網密度の向上に向けて事業実施路線の早期完成に取り組んでいる。
 ・国が示している「林道整備における路網密度の水準」では、本県が目安としている中傾斜地（林地斜面の傾斜角15～30度）での林道等の林内道路密度が25～40m/haとされているが、本県の林内道路密度は令和2年度末時点で16.7m/haであるため、目指すべき水準への到達に向け、路網整備の一層の推進が必要となっている。
 ・また、県内では、東日本大震災津波で被災した製材・合板工場の復旧により建築用材の需要が回復傾向にある中、近年は、県内はもとより近県においても木質バイオマス発電施設の整備が進み、燃料用素材の需要が増大していることから、木材の安定供給体制の整備に向け、木材生産の基盤である林道等の路網整備が急務となっている。

ウ 施工地域における様況

本路線の利用区域内は、人工林率が45.9%となっている。人工林のうち森林整備が必要とされる50年生以下の林分が約16.4%（54.3ha）となっている一方、51年生以上の成熟した林分の面積の割合が増加しており、木材生産等に向けた林道等の整備が急務となっている。このため、資源の循環利用を促進するため、優先的に投資すべき「生産基盤強化区域」に指定され、路網等の生産基盤を重点的に整備する区域とされている。
 また、東日本大震災津波の際は終点側県道が浸水したことから、災害時の迂回路としても期待されている。

○中項目評価は、全国又は県内において、林道事業に係る政策や事業のあり方についての議論や見直しの検討がないため「a」とした。

中項目評価 a . b . c

(2) 事業に関する評価指標の推移

| 評価指標 | | 配点 | 事業着手時 評点(A) | 再評価時 評点(B) | 増減 (B)-(A) | 備考 |
|------|------------|-----|------------------|------------------|---------------|------------------------|
| 必要性 | 林業効果指数 | 5 | 5 8.05 | 5 11.09 | 0 | |
| | 利用区域森林面積 | 5 | 4 330ha | 4 330ha | 0 | |
| | 定住環境 | 5 | 3 1項目 | 3 1項目 | 0 | 集落間を結ぶ路線 |
| | 要整備森林の占有度 | 10 | 6 27% | 4 16% | -2 | 54.26ha/330ha = 16% |
| | 地域振興 | 5 | 3 1地区が指定されている | 5 2地区が指定されている | 2 | 山村振興・過疎地域 |
| 重要性 | 林内路網密度 | 5 | 5 1m/ha | 5 1m/ha | 0 | 200 m / 330 ha = 1m/ha |
| | 基幹的路线 | 5 | 4 連絡線形(基幹道路) | 4 連絡線形(基幹道路) | 0 | |
| | 作業道の整備状況 | 5 | 5 3路線 | 5 3路線 | 0 | |
| | 山地保全 | 5 | 5 1% | 5 1% | 0 | 50m / 5600 m = 1% |
| 緊急性 | 防災対策 | 5 | 5 2項目以上 | 5 2項目以上 | 0 | 公道の迂回路、防火線 |
| | 利用計画 | 5 | 5 2項目以上 | 5 2項目以上 | 0 | 保育・間伐 |
| 効率性 | 費用便益比(B/C) | 30 | 20 1.36 | 15 1.21 | -5 | |
| 熟度 | 地元の協力体制 | 10 | 10 非常に良い | 10 非常に良い | 0 | |
| 計 | | 100 | 80 | 75 | -5 | (前回評価時/再評価時) 94% |

○ 費用便益分析

費用便益分析手法: 林野公共事業における事業評価マニュアル (R3.6 林野庁) (単位: 百万円)

| 区 分 | | 事業着手時 (基準年: H24) | 再評価時 (基準年: R4) |
|-------------|-------------|---------------------|-------------------|
| 費用項目 | 全体事業費 | 856.8 | 1,156.4 |
| | ※維持管理費等を含む | | |
| | | | |
| | | | |
| | 総費用 (C) | 856.8 | 1,156.4 |
| 便益項目 | 木材生産便益 | 557.7 | 672.1 |
| | 森林整備経費縮減等便益 | 546.1 | 266.9 |
| | 災害等縮減便益 | 42.8 | 425.1 |
| | 維持管理縮減便益等 | 20.5 | 29.8 |
| | 総便益 (B) | 1,167.1 | 1,393.9 |
| 費用便益比 (B/C) | | 1.36 | 1.21 |

※費用便益分析において地域特性等考慮すべき特記事項
特になし

○中項目評価は、各評価指標の評点の合計が
事業着手時の90%以上であることから「a」
とした。(94%)

○ 関連する開発プロジェクト等の状況
特になし

中項目評価 a . b . c

(3) 自然環境等の状況及び環境配慮事項

ア 動植物、地形・地質、歴史文化、景観等の状況及び岩手県自然環境保全指針による保全区分

- ・岩手県自然環境保全指針による保全区分 A
- ・希少野生動植物生息の有無 あり
- ・埋蔵文化財包蔵地の有無 なし
- ・その他特記事項

イ 環境配慮事項及び環境等への配慮に要する事業費

- ・振興局公共事業等に係る希少野生動植物調査検討委員会への付議状況 付議している

① 主な助言内容

全体計画調査業務に係る猛禽類調査方法が不十分との指摘があり、再度調査を行うよう助言があった。

② 対応状況

平成29年度に再度調査を行ったところ、計画路線の起終点周辺に営巣木がある希少猛禽類のペアが2対確認された。

その後の観測調査では、令和元年度に終点側で落巣を確認し、以降、巣の再建が見られなかったことから工事を再開している。また、起点側については、人工巣を計画路線の影響範囲外に設置し、希少猛禽類を誘導することとしており、十分に配慮しながら施工していく。

◁環境等への配慮に要する経費＞

- ・間伐材を使用した木製構造物を施工 (3,616千円)
- ・再生砕石の使用 (3,711千円)
- ・再生資材(再生アスファルト)の使用 (3,058千円)

○中項目評価は、自然環境保全指針の「優れた自然」の保全区分毎の保全方向に沿って積極的な対応をしていることから「a」とした。

中項目評価 a . b . c

○中項目評価が「a」「a」「a」で構成されていることから、大項目評価については「AA」とした。

評 価 AA . A . B . C

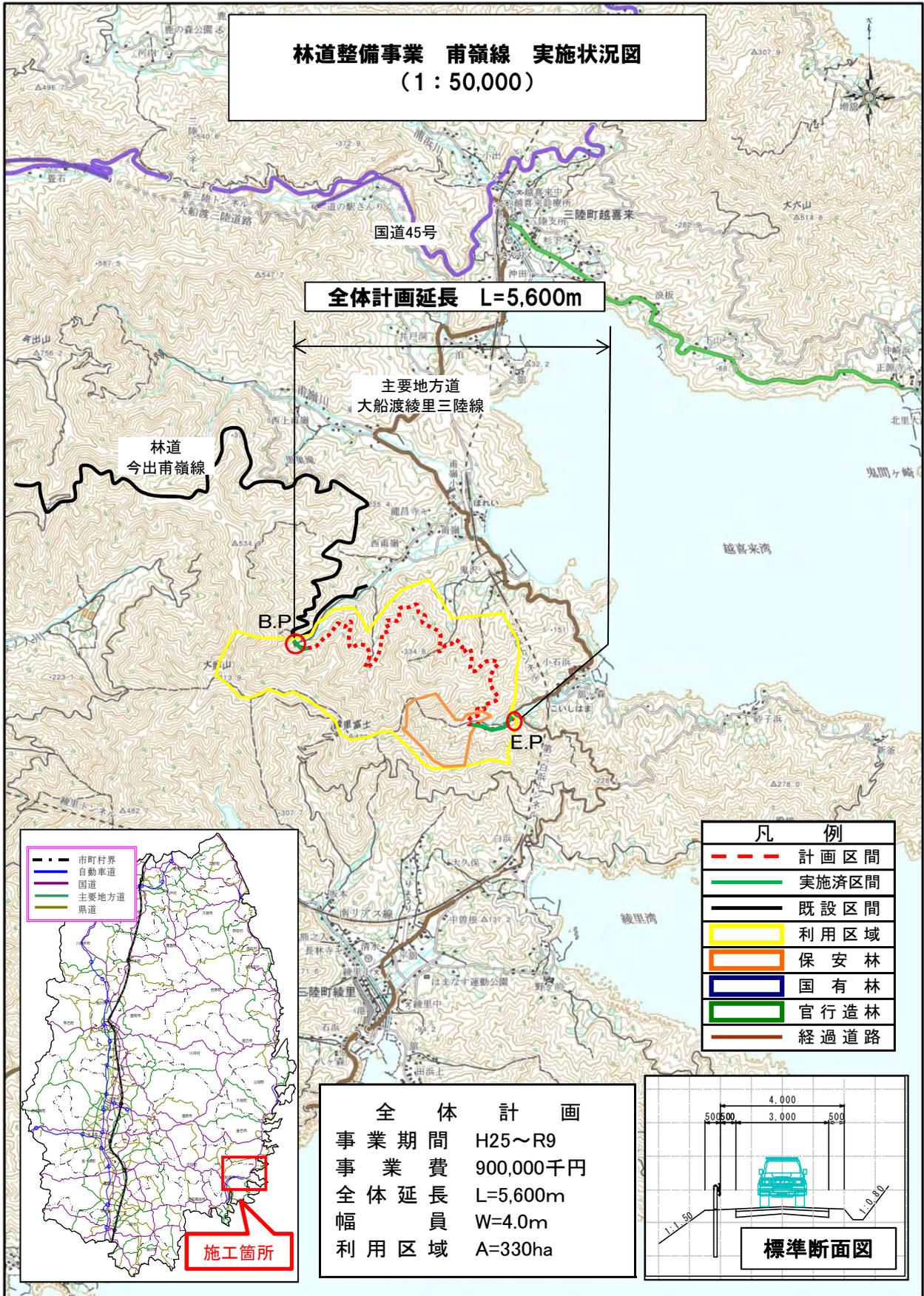
社会経済情勢等の変化

| | |
|--------------------|--|
| コスト削減対策及び代替案立案の可能性 | (1) コスト削減対策の実施状況及び今後の可能性 |
| | <ul style="list-style-type: none"> 再生資源の活用による削減額 3,992千円 (再生砕石、再生アスファルト合材の使用) 計 3,992千円 |
| | (2) 代替案立案の可能性 |
| | ①代替案として考えられる他の事業手法・工法の比較検討結果 線形について、事業申請者（市）及び地権者の要望を踏まえ、開設コスト等について比較検討し、現計画としたものである。 ②今後における代替案立案の可能性 現計画は原木の供給先となる合板・製材工場等の集荷圏にあり、区域内の人工林の蓄積量のうち標準伐期齢以上の蓄積量の占める割合が5割以上となっているなどの要件に合致していることから生産基盤強化区域に指定されている。このため、本路線を幹線とした効率的な路網の形成が可能なことから、事業効果がより高い代替案の可能性はない。 |

| 総合評価 | (1) 総合評価 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
|--|---|---|---|--------------------------------------|--------------------|------------|------------|--------------|--------------------|------------|------------|-----|------------|------|------|------|------|------|----|-----|-----|----|-----|-------|-------|----|---|---|----|---|---|---|----|------|
| | <table border="1" style="width: 100%;"> <tr> <td style="width: 20%;">総合評価 (対応方針案)</td> <td style="width: 30%; text-align: center;"> <div style="border: 1px solid black; border-radius: 50%; padding: 5px; display: inline-block;">事業継続</div> </td> <td style="width: 50%; text-align: center;"> 要 検 討 ・ 中 止 (事業継続、見直し継続、休止、中止) </td> </tr> </table> | 総合評価 (対応方針案) | <div style="border: 1px solid black; border-radius: 50%; padding: 5px; display: inline-block;">事業継続</div> | 要 検 討 ・ 中 止 (事業継続、見直し継続、休止、中止) | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | 総合評価 (対応方針案) | <div style="border: 1px solid black; border-radius: 50%; padding: 5px; display: inline-block;">事業継続</div> | 要 検 討 ・ 中 止 (事業継続、見直し継続、休止、中止) | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | (事業名) 林道整備事業 甫嶺線 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | <table border="1" style="width: 100%; text-align: center;"> <thead> <tr> <th rowspan="2">着手年度</th> <th rowspan="2">完了予定年度</th> <th rowspan="2">事業費 (百万円)</th> <th rowspan="2">投資 事業費 (百万円)</th> <th rowspan="2">進捗率 (%)</th> <th colspan="2">(1) 事業進捗状況</th> <th colspan="3">(2) 社会経済情勢</th> <th colspan="2">参考</th> </tr> <tr> <th>進捗状況</th> <th>計画変更</th> <th>社会経済</th> <th>評価指標</th> <th>自然環境</th> <th>評点</th> <th>B/C</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>H25</td> <td>R9</td> <td>900</td> <td>264.1</td> <td>29.3%</td> <td>BB</td> <td>b</td> <td>b</td> <td>AA</td> <td>a</td> <td>a</td> <td>a</td> <td>75</td> <td>1.21</td> </tr> </tbody> </table> | 着手年度 | 完了予定年度 | 事業費 (百万円) | 投資 事業費 (百万円) | 進捗率 (%) | (1) 事業進捗状況 | | (2) 社会経済情勢 | | | 参考 | | 進捗状況 | 計画変更 | 社会経済 | 評価指標 | 自然環境 | 評点 | B/C | H25 | R9 | 900 | 264.1 | 29.3% | BB | b | b | AA | a | a | a | 75 | 1.21 |
| | 着手年度 | | | | | | 完了予定年度 | 事業費 (百万円) | 投資 事業費 (百万円) | 進捗率 (%) | (1) 事業進捗状況 | | (2) 社会経済情勢 | | | 参考 | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | | 進捗状況 | 計画変更 | 社会経済 | 評価指標 | 自然環境 | | | | | 評点 | B/C | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | H25 | R9 | 900 | 264.1 | 29.3% | BB | b | b | AA | a | a | a | 75 | 1.21 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | ○総合評価に係るコメント | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | ①再評価の総括 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 「事業の進捗状況等」については、「事業計画の大幅な変更」がなく、今後も計画的に進捗が見込まれる状況であること、また、「社会経済情勢等の変化」については、効率的かつ安定的な林業生産活動を実現するための生産基盤として林道の必要性が高まっていることに加え、「評価指標」、「自然環境等の状況」に関して特に大きな変化が見られないことから「事業継続」と評価したものである。 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| ②特記事項 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| なし | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| (2) 要検討、中止の場合の対応 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |

※評価対象事業の位置図、計画平面図、標準横断図等を添付のこと。

林道整備事業 甫嶺線 実施状況図 (1:50,000)



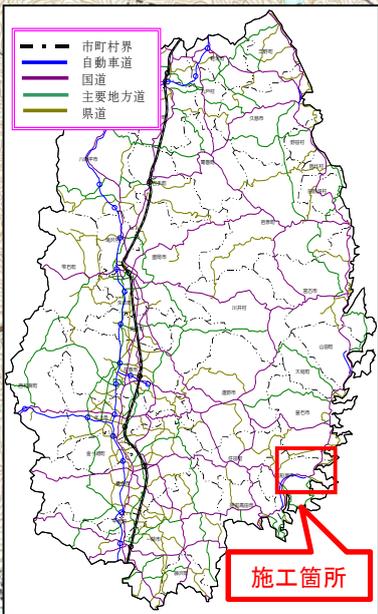
全体計画延長 L=5,600m

主要地方道
大船渡綾里三陸線

林道
今出甫嶺線

B.P

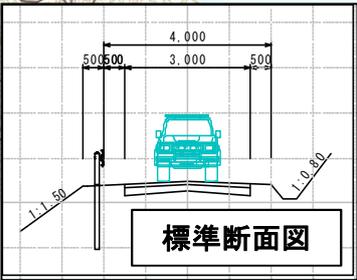
E.P



施工箇所

| 凡 例 | |
|-----|-------|
| | 計画区間 |
| | 実施済区間 |
| | 既設区間 |
| | 利用区域 |
| | 保安林 |
| | 国有林 |
| | 官行造林 |
| | 経過道路 |

| 全 体 計 画 | |
|---------|-----------|
| 事業期間 | H25~R9 |
| 事業費 | 900,000千円 |
| 全体延長 | L=5,600m |
| 幅員 | W=4.0m |
| 利用区域 | A=330ha |



公共事業 再評価調書

| | | | | | | | | | | | | |
|---|---|---|--|------------------------------|---|----------------|------------------|----------------------------------|-------|------------------|--------------|---|
| 事業名 | 林道整備事業 | | 補助・単独 | 担当部課名 | 農林水産部 森林保全課 | | | | | | | |
| 路線名等 | しんりんきかんどう 森林基幹道 | やまご ひらぬがせん 安孫・平糠線 | 地区名 | — | 市町村 | 葛巻町及び一戸町 | | | | | | |
| 〔事業根拠法令等：森林法第4条〕 | | | | | | | | | | | | |
| 事業概要 | (1) 事業目的 | | | | | | | | | | | |
| | <p>○解決すべき課題や事業目的 森林基幹道安孫・平糠線は、岩手郡葛巻町田部地内から二戸郡一戸町平糠地内に位置し、起点を町道（一戸町）小繫・平糠線、終点を県道15号一戸葛巻線に連絡して事業実施している。 当路線の利用区域内の森林は、県有林を中心に人工林率が県平均を上回っているものの、林内路網の整備が遅れており、間伐など森林整備の推進に支障となっている。 本事業は、造林・保育・素材生産等の森林施業の効率化や山村地域の振興を図るとともに、健全な森林を育成するための森林整備の基盤となる林道を整備するものである。</p> <p>○整備によって得られる効果 林内路網の幹線となる林道が整備されることで、森林施業の低コスト化が図られることから、効率的で適切な森林整備の促進により、木材の安定供給や、水源涵養、県土の保全等森林の多面的機能の持続的な発揮が期待される。</p> | | | | | | | | | | | |
| | <p>(2) 事業内容 全体計画延長5,674m、幅員5.0m~7.0m、全体事業費2,932,654千円</p> <p>(3) 整備目標等 林内道路密度 (R16末) 19.8m/ha (葛巻町)、16.3m/ha (一戸町) ※参考 (R3末現在) 14.7m/ha (葛巻町)、13.4m/ha (一戸町)</p> | | | | | | | | | | | |
| 事業着手 | H20年度 | 事業計画期間 | H20 | ~ | R9 再々評価時全体計画期間 R5 再評価時全体計画期間 H28 (当初全体計画期間) | 用地着手 | H20年度 | 工事着手 | H20年度 | | | |
| 事業費 | 事業費の状況 [百万円] | | | | | | | | | | | |
| | 当初計画 総事業費 (H20年) (うち用地費) | 前回 再評価時 総事業費 (H29年) (うち用地費) | 今回 再評価時 総事業費 (R4年) A (うち用地費) | B | H20~ R1 | C | R2 | D | R3 | 投資事業費 E=B+C+D | 進捗率 F=E/A | |
| | 1,729.0 (-) | 2,354.9 (-) | 2,932.6 (-) | 1,656.8 (-) | 4.7 (-) | 105.9 (-) | 1,767.4 (-) | 国庫 1,250.4 県 486.4 他 30.60 | 60.3% | | | |
| 事業の進捗状況等 | (1) 事業の進捗状況 | | | | | | | | | | | |
| | <p>ア 整備効果の発現状況 全体計画延長5,674mのうち、令和3年度末までに約2.6km (進捗率45.6%) が完成し、既に供用開始しており、間伐等の森林整備 (323.0ha) に利用されている。</p> <p>イ 未着工及び工事遅延等の理由並びに解決の見通し</p> <p>①理由 東日本大震災津波以降、事業単価の上昇の影響を受け、単年度の整備延長が減少したことから、事業費の増加と全体計画期間の延長が必要となった。また、平成28年、令和元年の大雨災害のため、入札不調が発生したことから、工事が遅延した。なお、事業計画区域内に、希少猛禽類の営巣地が確認されたことから、モニタリング調査を実施し、生育環境の配慮に取り組みながら事業を実施しており、今後も継続が必要となっている。</p> <p>②解決の見通し 災害復旧工事が完了し、入札不調の状況は改善した。また、希少猛禽類の生育環境に配慮した発注計画の見直しやコスト縮減に取り組んでおり、今後の計画的な事業進捗により、期間内の竣工が見込まれる。 ○中項目評価は、計画期間の延長が生じたものの、一定の期間を延長することにより竣工が見込まれることから「b」とした。</p> | | | | | | | | | | | |
| | <table border="1" style="margin-left: auto; margin-right: auto;"> <tr> <td>中項目評価</td> <td>a</td> <td>.</td> <td>b</td> <td>.</td> <td>c</td> </tr> </table> | | | | | | | 中項目評価 | a | . | b | . |
| 中項目評価 | a | . | b | . | c | | | | | | | |
| (2) 事業計画の変更の有無及び内容 | | | | | | | | | | | | |
| ①変更内容 | | | | | | | | | | | | |
| 項目 | 変更前 (再評価時) | | | 変更後 (再々評価時) | | | | | | | | |
| 計画期間 | H20~R5 | | | H20~R9 | | | | | | | | |
| 道路工 | 延長 L=5,654m 総事業費 2,354,901千円 | | | 延長 L=5,674m 総事業費 2,932,654千円 | | | | | | | | |
| ②「b」と判断した理由 | | | | | | | | | | | | |
| ○中項目評価は、上記(1)イ①の理由により計画期間及び事業費が変更となるが、大幅な変更ではないため「b」とした。 | | | | | | | | | | | | |
| <table border="1" style="margin-left: auto; margin-right: auto;"> <tr> <td>中項目評価</td> <td>a</td> <td>.</td> <td>b</td> <td>.</td> <td>c</td> </tr> </table> | | | | | | | 中項目評価 | a | . | b | . | c |
| 中項目評価 | a | . | b | . | c | | | | | | | |
| ○中項目評価が「b」、「b」で構成されていることから大項目評価は「BB」とした。 | | | | | | | | | | | | |
| 評価 | AA . A . BB . B . C | | | | | | | | | | | |

(1) 事業に関する社会経済情勢

ア 全国の状況

- ・国では、令和3年6月に、新たな「森林・林業基本計画」を公表し、森林・林業・木材産業によるグリーン成長などの方向性が盛り込まれた。
- ・この中で、林産物の供給及び利用に関して、令和元年度に3,100万㎡の実績であった国産材の供給量を、令和7年に4,000万㎡、令和12年に4,200万㎡とすることを目標に掲げており、引き続き、傾斜区分と作業システムに応じた目標とすべき路網密度の水準を踏まえつつ、林道等の路網整備を推進することとしている。

イ 本県の状況

- ・県では、計画的な林道整備を推進するため、実効性の高い中期的なアクションプランとして令和元年度に「林道整備事業中期実施計画」を策定し、年間10kmの林道整備を目標に、路網密度の向上に向けて事業実施路線の早期完成に取り組んでいる。
- ・国が示している「林道整備における路網密度の水準」では、本県が目安としている中傾斜地（林地斜面の傾斜角15～30度）での林道等の林内道路密度が25～40m/haとされているが、本県の林内道路密度は令和2年度末時点で16.7m/haであるため、目指すべき水準への到達に向け、路網整備の一層の推進が必要となっている。
- ・また、県内では、東日本大震災津波で被災した製材・合板工場の復旧により建築用材の需要が回復傾向にある中、近年は、県内はもとより近県においても木質バイオマス発電施設の整備が進み、燃料用素材の需要が増大していることから、木材の安定供給体制の整備に向け、木材生産の基盤である林道等の路網整備が急務となっている。

ウ 施工地域における状況

- ・本路線の利用区域においては、計画当初からの年数の経過により、人工林のうち森林整備が必要とされる50年生以下の林分が約38.5%（726.4ha）となっている一方、51年生以上の成熟した林分の面積の割合が増加しており、木材生産等に向けた林道等の整備が急務となっている。
- ・本路線は平成28年度に操業を開始した一戸町の木質バイオマス発電施設から距離が約30kmと近いことなど、森林資源を有効に利用できる条件が整っている。
- ・葛巻町では、国道4号へのアクセスによる地域住民の生活環境の改善と大雨災害時の国道281号の緊急迂回路確保に向け、本路線への期待度が高いことから、早期完成が強く望まれている。

○中項目評価は、全国又は県内において、林道事業に係る政策や事業のあり方についての議論や見直しの検討がないため「a」とした。

| | | | |
|-------|---|---|---|
| 中項目評価 | a | b | c |
|-------|---|---|---|

(2) 事業に関する評価指標の推移

| 評価指標 | | 配点 | 事業着手時 評点 | 再評価時 評点(A) | 再々評価時 評点(B) | 増減 (B)-(A) | 備考 |
|--------------|---------------|--------|------------------------------|------------------------------|------------------------------|---------------|--------------------------------------|
| 必要性 | 林業効果指数 | 5 | 5 2.49 | 5 3.45 | 5 3.30 | 0 | |
| | 利用区域 森林面積 | 5 | 5 1,885ha | 5 1,885ha | 5 1,885ha | 0 | |
| | 定住環境 | 5 | 5 3項目 | 5 3項目 | 5 3項目 | 0 | ①集落間を結ぶ路線、②通学路に利用、③利用区域内に家屋等が10戸以上ある |
| | 要整備森林の 占有度 | 10 | 10 61% | 8 49% | 6 38% | -2 | 726/1,885×100 ≒38% |
| | 地域振興 | 5 | 3 1地区 | 5 2地区 | 5 2地区 | 0 | 過疎地域 山村振興地域 |
| | 重要性 | 林内路網密度 | 5 | 5 11m/ha | 5 11m/ha | 5 11m/ha | 0 |
| 基幹的路線 | | 5 | 5 連絡線形で支線計画あり (基幹道路指定) | 5 連絡線形で支線計画 あり(基幹道路指定) | 5 連絡線形で支線計画 あり(基幹道路指定) | 0 | |
| 作業道の 整備状況 | | 5 | 1 1路線 | 1 1路線 | 1 1路線 | 0 | |
| 山地保全 | | 5 | 5 0% | 5 0% | 5 0% | 0 | |
| 緊急性 | 防災対策 | 5 | 5 2項目以上 | 5 2項目以上 | 5 2項目以上 | 0 | 公道の迂回路 防火線 |
| | 利用計画 | 5 | 5 2項目以上 | 5 2項目以上 | 5 2項目以上 | 0 | 保育、間伐 |
| 効率性 | 費用便益比(B/C) | 30 | 30 2.66 | 15 1.25 | 5 1.04 | -10 | |
| 熟度 | 地元の協力体制 | 10 | 5 良い | 5 良い | 5 良い | 0 | |
| 計 | | 100 | 89 | 74 | 62 | -12 | (再々評価時/再評価時) 84% |

○ 費用便益分析

費用便益分析手法： 林野公共事業における事業評価マニュアル (R3.6 林野庁) (単位：百万円)

| 区 分 | 事業着手時 | 再評価時 | 再々評価時 | |
|------------|-------------|-----------|----------|---------|
| | (基準年：H20) | (基準年：H29) | (基準年：R4) | |
| 費用項目 | 全体事業費 | 1,574.5 | 3,671.1 | 5,141.7 |
| | ※維持管理費等を含む | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | 総費用(C) | 1,574.5 | 3,671.1 | 5,141.7 |
| 便益項目 | 木材生産便益 | 2,408.3 | 1,262.4 | 4,049.8 |
| | 森林整備経費縮減等便益 | 1,240.3 | 2,758.4 | 855.5 |
| | 一般交通便益 | 0.0 | 0.0 | 0.0 |
| | 森林の総合利用便益 | 2.3 | 6.7 | 0.0 |
| | 災害等縮減便益 | 252.7 | 315.8 | 414.5 |
| | その他の便益 | 284.7 | 230.9 | 22.2 |
| | 総便益(B) | 4,188.3 | 4,574.2 | 5,342.0 |
| 費用便益比(B/C) | 2.66 | 1.25 | 1.04 | |

※費用便益分析において地域特性等考慮すべき特記事項

社
会
経
済
情
勢
等
の
変
化

○中項目評価は、各評価指標の評点の合計が再評価時の80%以上90%未満であることから「b」とした。(84%)

○ 関連する開発プロジェクト等の状況
特になし

| | | | | | |
|-------|---|---|---|---|---|
| 中項目評価 | a | . | b | . | c |
|-------|---|---|---|---|---|

(3) 自然環境等の状況及び環境配慮事項

ア 動植物、地形・地質、歴史文化、景観等の状況及び岩手県自然環境保全指針による保全区分

- ・岩手県自然環境保全指針による保全区分 B
- ・希少野生動植物生息の有無 あり
- ・埋蔵文化財包蔵地の有無 あり ※調査の結果、「影響なし」とされた。
- ・その他特記事項

イ 環境配慮事項及び環境等への配慮に要する事業費

- ・振興局公共事業等に係る希少野生動植物調査検討委員会への付議状況 付議している

① 主な助言内容

事業計画区域内に希少猛禽類の営巣地があるため、モニタリング調査が必要であると助言があった。
希少植物が自生しているため、移植による対応が必要であると助言があった。

② 対応状況

希少猛禽類については、毎年、モニタリング調査により繁殖状況及び行動圏を確認している。
希少植物については、工事着手前に移植を行った。

③ 対応結果

上記について、委員会に対応状況を報告し、了解を得た上で事業を実施している。

《環境等への配慮に要する経費》

- ・間伐材を使用した木製構造物を施工 (6,923千円)
- ・再生砕石を使用 (29,857千円)

○中項目評価は、自然環境保全指針の「優れた自然」の保全区分毎の保全方向に沿って積極的な対応をしていることから「a」とした。

| | | | | | |
|-------|---|---|---|---|---|
| 中項目評価 | a | . | b | . | c |
|-------|---|---|---|---|---|

○中項目評価が「a」「b」「a」で構成されていることから、大項目評価については「A」とした。

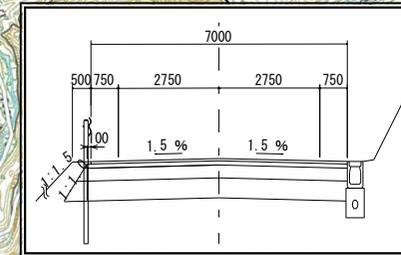
| | | | | | | | |
|-----|----|---|---|---|---|---|---|
| 評 価 | AA | . | A | . | B | . | C |
|-----|----|---|---|---|---|---|---|

| コスト削減対策及び代替案立案の可能性 | <p>(1) コスト削減対策の実施状況及び今後の可能性</p> <ul style="list-style-type: none"> ・法面計画の見直しによる削減額 22,244千円 (法砕工の採用) ・構造物設置経費の削減額 14,913千円 (擁壁構造の見直し) ・設計方法の見直し 451,986千円 (仮橋構造の見直し、及びボックスカルバートの採用) ・再生資源の活用による削減額 3,566千円 (再生砕石、再生アスファルト合材の使用) ・ライフサイクルコストの低減 312千円 (丸太伏工を採用し、維持管理費を低減) ・設計の合理化 2,374千円 (合併積算の採用) <p style="text-align: right;">計 495,395千円</p> | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
|--|--|--|--|--------------------|------------|--------------------|------|------------|------|------|--------|--------------|--------------------|------------|------------|--|------------|--|--|----|--|------|------|------|------|------|----|-----|-----|----|---------|---------|-------|----|---|---|---|---|---|---|----|------|
| | <p>(2) 代替案立案の可能性</p> <p>①代替案として考えられる他の事業手法・工法の比較検討結果 線形について、事業申請者(町)及び地権者の要望を踏まえ、開設コスト等について比較検討し、現計画としたものである。</p> <p>②今後における代替案立案の可能性 現計画は森林整備を実施する区域を通過する線形であることに加え、本路線を幹線とした効率的な路網の形成が可能なことから、事業効果がより高い代替案の可能性はない。</p> | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 総合評価 | <p>(1) 総合評価</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 25%; text-align: center;">総合評価 (対応方針案)</td> <td style="text-align: center;"> <div style="border: 1px solid black; border-radius: 50%; width: 40px; height: 40px; display: flex; align-items: center; justify-content: center; margin: 0 auto;">事業継続</div> </td> <td style="text-align: center;">要 検 討</td> <td style="text-align: center;">中 止</td> </tr> <tr> <td colspan="4" style="text-align: center;">(事業継続、見直し継続、休止、中止)</td> </tr> </table> <p>(事業名) 林道整備事業 安孫・平糠線</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse; text-align: center;"> <thead> <tr> <th rowspan="2">着手年度</th> <th rowspan="2">完了予定年度</th> <th rowspan="2">事業費 (百万円)</th> <th rowspan="2">投資 事業費 (百万円)</th> <th rowspan="2">進捗率 (%)</th> <th colspan="2">(1) 事業進捗状況</th> <th colspan="3">(2) 社会経済情勢</th> <th colspan="2">参考</th> </tr> <tr> <th>進捗状況</th> <th>計画変更</th> <th>社会経済</th> <th>評価指標</th> <th>自然環境</th> <th>評点</th> <th>B/C</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>H20</td> <td>R9</td> <td>2,932.6</td> <td>1,767.4</td> <td>60.3%</td> <td>BB</td> <td>b</td> <td>b</td> <td>A</td> <td>a</td> <td>b</td> <td>a</td> <td>62</td> <td>1.04</td> </tr> </tbody> </table> <p>○総合評価に係るコメント</p> <p>①再評価の総括 「事業の進捗状況等」については、「工事の遅延等」はあるものの「事業計画の大幅な変更」がなく、今後も計画的に進捗が見込まれる状況であること、また「社会経済情勢等の変化」については、効率的かつ安定的な林業生産活動を実現するための生産基盤として林道の必要性が高まっていることに加え、「評価指標」、「自然環境等の状況」に関して特に大きな変化が見られないことから、総合評価は「事業継続」と評価した。</p> <p>②特記事項 なし</p> | 総合評価 (対応方針案) | <div style="border: 1px solid black; border-radius: 50%; width: 40px; height: 40px; display: flex; align-items: center; justify-content: center; margin: 0 auto;">事業継続</div> | 要 検 討 | 中 止 | (事業継続、見直し継続、休止、中止) | | | | 着手年度 | 完了予定年度 | 事業費 (百万円) | 投資 事業費 (百万円) | 進捗率 (%) | (1) 事業進捗状況 | | (2) 社会経済情勢 | | | 参考 | | 進捗状況 | 計画変更 | 社会経済 | 評価指標 | 自然環境 | 評点 | B/C | H20 | R9 | 2,932.6 | 1,767.4 | 60.3% | BB | b | b | A | a | b | a | 62 | 1.04 |
| | 総合評価 (対応方針案) | <div style="border: 1px solid black; border-radius: 50%; width: 40px; height: 40px; display: flex; align-items: center; justify-content: center; margin: 0 auto;">事業継続</div> | 要 検 討 | 中 止 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | (事業継続、見直し継続、休止、中止) | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | 着手年度 | 完了予定年度 | 事業費 (百万円) | 投資 事業費 (百万円) | 進捗率 (%) | (1) 事業進捗状況 | | (2) 社会経済情勢 | | | 参考 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 進捗状況 | | | | | | 計画変更 | 社会経済 | 評価指標 | 自然環境 | 評点 | B/C | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| H20 | R9 | 2,932.6 | 1,767.4 | 60.3% | BB | b | b | A | a | b | a | 62 | 1.04 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| <p>(2) 要検討、中止の場合の対応</p> | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| <p>※評価対象事業の位置図、計画平面図、標準横断図等を添付のこと。</p> | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |

林道整備事業 安孫・平糠線 実施状況図 (1:50,000)

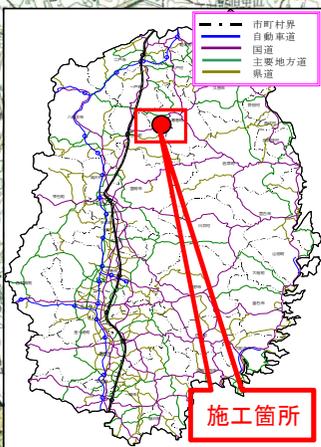
全体計画
 事業期間 H20～R9
 事業費 2,932,654千円
 延長 L=5,674m
 幅員 W=5～7m
 利用区域 A=1,885ha

標準断面図



県道15号一戸葛巻線

| 凡 例 | |
|-----|----------------|
| | 既設区間 |
| | 実施済区間 |
| | 計画区間 (R4以降) |
| | 利用区域 |
| | 保安林 |
| | 国有林 |
| | 官行造林 |
| | 経過道路 |



全体計画延長 L=5,674m



| | | | | | | | | |
|--|--|---------------------------|-----------------------------|---|-----------------------|------|---------------|----------------------------------|
| 事業名 | 林道整備事業 | | 補助・単独 | 担当部課名 | 農林水産部 森林保全課 | | | |
| 路線名等 | しんりんかんり どう 森林管理道 | すずたけにこうせん 鈴峠2号線 | 地区名 | — | 市町村 葛巻町 | | | |
| 事業概要 | 〔事業根拠法令等：森林法第4条〕 | | | | | | | |
| | <p>(1) 事業目的</p> <p>○解決すべき課題や事業目的 森林管理道鈴峠2号線は、岩手郡葛巻町江刈地区内に位置し、起点を県道普代小屋瀬線、終点を町道高家領袖山線に連絡して事業実施している。 当路線の利用区域内の森林は、町有林などの機関造林地が大半を占めていることから人工林率が高いものの、林内路網の整備が遅れており、間伐など森林整備の推進に支障となっている。 本事業は、造林・保育・素材生産等の森林施業の効率化や山村地域の振興を図るとともに、健全な森林を育成するための森林整備の基盤となる林道を整備するものである。</p> <p>○整備によって得られる効果 林内路網の幹線となる林道が整備されることで、林内移動など作業の効率化や木材生産の低コスト化が図られ、間伐など森林整備の促進や、水源涵養など森林の多面的機能の持続的な発揮が期待される。</p> | | | | | | | |
| | <p>(2) 事業内容</p> <p>全体計画延長10,790m、幅員3.0m (4.0m)、全体事業費855,000千円</p> | | | | | | | |
| | <p>(3) 整備目標等</p> <p>林内道路密度 (R16末) 19.8m/ha (葛巻町) ※参考 (R3末現在) 14.7m/ha (葛巻町)</p> | | | | | | | |
| 事業着手 | H20年度 | 事業計画期 | H20 ~ R3 | R8 再々評価時全体計画期間 R3 再評価時全体計画期間 H26 (当初全体計画期間) | 用地着手 H20年度 工事着手 H21年度 | | | |
| 事業費 | 事業費の状況 [百万円] | | | | | | | |
| | 当初計画総事業費 (H20年) (うち用地費) | 前回再評価時総事業費 (H29年) (うち用地費) | 今回再評価時総事業費 (R4年) A | 進捗率 F=E/A | | | | |
| | 855.0 | 855.0 | 855.0 | H20~ R1 B | R2 C | R3 D | 投資事業費 E=B+C+D | 財源 国庫 155.3 県 155.4 他 - |
| 事業の進捗状況等 | (1) 事業の進捗状況 | | | | | | | |
| | <p>ア 整備効果の発現状況</p> <p>全体計画延長10.8kmのうち、令和3年度末までに約8.0km (進捗率74.1%) が完成し、既に一部供用開始しており、間伐等の森林整備 (約199ha) に利用されている。</p> | | | | | | | |
| | <p>イ 未着工及び工事遅延等の理由並びに解決の見通し</p> <p>①理由 東日本大震災津波以降、直接工事費にかかる労務費、資機材価格の高騰、間接工事費にかかる経費率の震災補正等、高コスト化が進行したため、同一事業費で施工できる工事規模が著しく縮小したことや、平成28年度、令和元年度の台風被害の影響で入札不調が相次いだことにより、事業進捗の停滞が発生した。 加えて、現在の施工区間は奥地で急峻な地形であるとともに、標高が900mを超える豪雪地帯のため、工事期間が限定されるなど、施工条件の厳しさが増している状況にある。</p> <p>②解決の見通し 現在、林道起点側からのみ工事を行う1工区体制としているが、終点側からも工事を行う2工区体制を検討しており、今後事業進捗の改善が見込まれる。</p> <p>○中項目評価は、事業進捗の低下等の影響による計画期間の延長が生じたものの、一定期間を延長することにより竣工が見込まれることから「b」とした。</p> | | | | | | | |
| | <p>中項目評価 a . b . c</p> | | | | | | | |
| (2) 事業計画の変更の有無及び内容 | | | | | | | | |
| ①変更内容 | | | | | | | | |
| 項目 | 変更前 (H29再評価時) | | 変更後 (R4再々評価時) | | | | | |
| 計画期間 | H20~R3 | | H20~R8 | | | | | |
| 道路工 | 延長 L=10,790m 総事業費 855,000千円 | | 延長 L=10,790m 総事業費 855,000千円 | | | | | |
| ②「a」と判断した理由 | | | | | | | | |
| ○中項目評価は、上記(1)イ①の理由による計画期間の変更であり、大幅な変更ではないため「b」とした。 | | | | | | | | |
| ○中項目評価が「b」、 「b」で構成されていることから大項目評価は「BB」とした。 | | | | | | | | |
| 評価 | AA . A . BB . B . C | | | | | | | |

(1) 事業に関する社会経済情勢

ア 全国の状況

・国では、令和3年6月に、新たな「森林・林業基本計画」を公表し、森林・林業・木材産業によるグリーン成長などの方向性が盛り込まれた。
 ・この中で、林産物の供給及び利用に関して、令和元年度に3,100万m³の実績であった国産材の供給量を、令和7年に4,000万m³、令和12年に4,200万m³とすることを目標に掲げており、引き続き、傾斜区分と作業システムに応じた目標とすべき路網密度の水準を踏まえつつ、林道等の路網整備を推進することとしている。

イ 本県の状況

・県では、計画的な林道整備を推進するため、実効性の高い中期的なアクションプランとして令和元年度に「林道整備事業中期実施計画」を策定し、年間10kmの林道整備を目標に、路網密度の向上に向けて事業実施路線の早期完成に取り組んでいる。
 ・国が示している「林道整備における路網密度の水準」では、本県が目安としている中傾斜地（林地斜面の傾斜角15～30度）での林道等の林内道路密度が25～40m/haとされているが、本県の林内道路密度は令和2年度末時点で16.7m/haであるため、目指すべき水準への到達に向け、路網整備の一層の推進が必要となっている。
 ・また、県内では、東日本大震災津波で被災した製材・合板工場の復旧により建築用材の需要が回復傾向にある中、近年は、県内はもとより近県においても木質バイオマス発電施設の整備が進み、燃料用素材の需要が増大していることから、木材の安定供給体制の整備に向け、木材生産の基盤である林道等の路網整備が急務となっている。

ウ 施工地域における状況

・本路線の利用区域においては、計画当初からの年数の経過により、人工林のうち森林整備が必要とされる50年生以下の林分が約9%（43.9ha）と減少している一方、51年生以上の成熟した林分の面積の割合が増加しており、木材生産等に向けた林道等の整備が急務となっている。
 ・本路線が位置する地域は、葛巻町内はもとより岩泉町内の製材所からの距離が約30kmと近いことなど、森林資源を有効に利用できる条件が整っている。

○中項目評価は、全国又は県内において、林道事業に係る政策や事業のあり方についての議論や見直しの検討がないため「a」とした。

中項目評価 a . b . c

(2) 事業に関する評価指標の推移

| 評価指標 | | 配点 | 事業着手時 評点 | 再評価時 評点(A) | 再々評価時 評点(B) | 増減 (B)-(A) | 備考 |
|------|---------------|------|-------------------|-------------------|-------------------|---------------|--------------------------|
| 必要性 | 林業効果指数 | 5 | 3 2.17 | 5 5.20 | 5 5.33 | 0 | |
| | 利用区域 森林面積 | 5 | 4 463ha | 4 463ha | 4 463ha | 0 | 200ha以上500ha未満 |
| | 定住環境 | 5 | 3 1項目 | 3 1項目 | 3 1項目 | 0 | 町営牧場 |
| | 要整備森林の 占有度 | 10 | 10 77% | 4 18% | 4 9% | 0 | 43.9ha/463×100 =9.48% |
| | 地域振興 | 5 | 5 2地区 | 5 2地区 | 5 2地区 | 0 | 過疎地域 山村振興地域 |
| 重要性 | 林内路網密度 | 5 | 5 9m/ha | 5 9m/ha | 5 9m/ha | 0 | 4,078m/463ha ≒9m/ha |
| | 基幹的路線 | 5 | 4 連絡線形(基幹道路指定) | 4 連絡線形(基幹道路指定) | 4 連絡線形(基幹道路指定) | 0 | |
| | 作業道の 整備状況 | 5 | 0 計画なし | 0 計画なし | 0 計画なし | 0 | |
| | 山地保全 | 5 | 5 0% | 5 0% | 5 0% | 0 | |
| 緊急性 | 防災対策 | 5 | 5 2項目以上 | 5 2項目以上 | 5 2項目以上 | 0 | 公道の迂回路、 防火線 |
| | 利用計画 | 5 | 5 2項目 | 3 1項目 | 3 1項目 | 0 | 間伐 |
| 効率性 | 費用便益比(B/C) | 30 | 30 | 20 | 15 | -5 | 15点：1.21～1.30 |
| | | 1.54 | 1.33 | 1.23 | | | |
| 熟度 | 地元の協力体制 | 10 | 5 良い | 5 良い | 5 良い | 0 | |
| 計 | | 100 | 84 | 68 | 63 | -5 | (再々評価時/再評価時) 93% |

○ 費用便益分析

費用便益分析手法： 林野公共事業における事業評価マニュアル (R3.6 林野庁) (単位：百万円)

| 区 分 | 事業着手時 | 再評価時 | 再々評価時 | |
|------------|-------------|-----------|----------|---------|
| | (基準年：H20) | (基準年：H29) | (基準年：R4) | |
| 費用項目 | 全体事業費 | 744.0 | 1,211.0 | 1,262.6 |
| | ※維持管理費等を含む | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | 総費用(C) | 744.0 | 1,211.0 | 1,262.6 |
| 便益項目 | 木材生産便益 | 546.0 | 344.9 | 538.9 |
| | 森林整備経費縮減等便益 | 369.0 | 638.3 | 637.3 |
| | 一般交通便益 | — | — | — |
| | 森林の総合利用便益 | 5.0 | 1.9 | 1.8 |
| | 災害等縮減便益 | 166.0 | 552.5 | 369.8 |
| | その他の便益 | 64.0 | 70.0 | — |
| | 総便益(B) | 1,150.0 | 1,607.6 | 1,547.8 |
| 費用便益比(B/C) | 1.546 | 1.33 | 1.23 | |

※費用便益分析において地域特性等考慮すべき特記事項

○中項目評価は、各評価指標の評点の合計が再評価時の90%以上であることから「a」とした。(93%)

○ 関連する開発プロジェクト等の状況

特になし

中項目評価 a . b . c

社会
経済
情勢
等
の
変
化

(3) 自然環境等の状況及び環境配慮事項

ア 動植物、地形・地質、歴史文化、景観等の状況及び岩手県自然環境保全指針による保全区分

- ・岩手県自然環境保全指針による保全区分 C
- ・希少野生動植物生息の有無 あり
- ・埋蔵文化財包蔵地の有無 なし
- ・その他特記事項

イ 環境配慮事項及び環境等への配慮に要する事業費

・振興局公共事業等に係る希少野生動植物調査検討委員会への付議状況

付議している

①主な助言内容

事業計画区域内に希少植物が自生している可能性があるため、現地調査を行うよう助言があった。

②対応状況

委員と同行し現地調査を実施したが、希少植物は確認されなかった。

③対応結果

希少植物が確認されなかったことから事業を実施している。

《環境等への配慮に要する経費》

- ・間伐材を使用した木製構造物を施工 (27,874千円)
- ・再生砕石を使用 (13,112千円)

○中項目評価は、自然環境保全指針の「優れた自然」の保全区分毎の保全方向に沿って積極的な対応をしていることから「a」とした。

中項目評価 a . b . c

○中項目評価が「a」「a」「a」で構成されていることから、大項目評価については「AA」とした。

評価

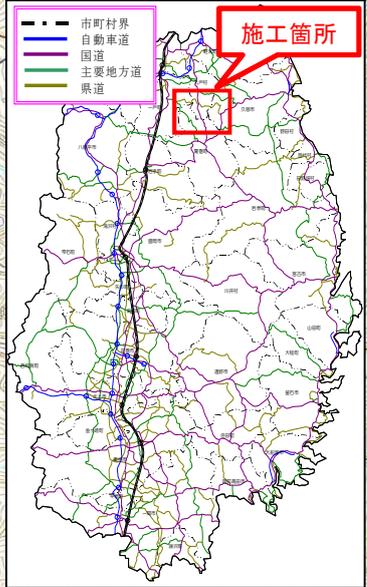
AA . A . B . C

| | |
|--------------------|--|
| コスト縮減対策及び代替案立案の可能性 | (1) コスト縮減対策の実施状況及び今後の可能性 |
| | <ul style="list-style-type: none"> ・安全施設の見直しによる縮減 8,325千円 (防護柵を視線誘導標に見直し) ・再生資源の活用による縮減額 11,548千円 (路盤工において再生砕石を使用) ・ライフサイクルコストの低減 384千円 (丸太伏工の採用による維持管理費の低減) 計 20,257千円 |
| | (2) 代替案立案の可能性 |
| | <p>①代替案として考えられる他の事業手法・工法の比較検討結果 線形について、事業申請者（町）及び地権者の要望を踏まえ、開設コスト等について比較検討し、現計画としたものである。</p> <p>②今後における代替案立案の可能性 現計画は森林整備を実施する区域を通過する線形であることに加え、本路線を幹線とした効率的な路網の形成が可能である。また、本路線は公道と接続した地域の根幹となる幹線であり、災害時に代替路としての機能が確保されるとして、山村強靱化林道に位置づけられており、事業効果がより高い代替案の可能性はない。</p> |

| 総合評価 | (1) 総合評価 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
|--|--|---|---|--------------------|------------|--------------------|--------------|--------------------|------------|------------|-----|------------|------|------|------|------|------|----|-----|-----|----|-----|-------|-------|----|---|---|----|---|---|---|----|------|
| | <table border="1" style="width: 100%;"> <tr> <td style="width: 25%;">総合評価 (対応方針案)</td> <td style="width: 50%; text-align: center;"> <div style="border: 1px solid black; border-radius: 50%; padding: 5px; display: inline-block;">事業継続</div> </td> <td style="width: 25%; text-align: center;">要検討</td> <td style="width: 25%; text-align: center;">中止</td> </tr> <tr> <td colspan="4" style="text-align: center;">(事業継続、見直し継続、休止、中止)</td> </tr> </table> | 総合評価 (対応方針案) | <div style="border: 1px solid black; border-radius: 50%; padding: 5px; display: inline-block;">事業継続</div> | 要検討 | 中止 | (事業継続、見直し継続、休止、中止) | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | 総合評価 (対応方針案) | <div style="border: 1px solid black; border-radius: 50%; padding: 5px; display: inline-block;">事業継続</div> | 要検討 | 中止 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | (事業継続、見直し継続、休止、中止) | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | (事業名) 林道整備事業 鈴峠2号線 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th rowspan="2">着手年度</th> <th rowspan="2">完了予定年度</th> <th rowspan="2">事業費 (百万円)</th> <th rowspan="2">投資 事業費 (百万円)</th> <th rowspan="2">進捗率 (%)</th> <th colspan="2">(1) 事業進捗状況</th> <th colspan="3">(2) 社会経済情勢</th> <th colspan="2">参考</th> </tr> <tr> <th>進捗状況</th> <th>計画変更</th> <th>社会経済</th> <th>評価指標</th> <th>自然環境</th> <th>評点</th> <th>B/C</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>H20</td> <td>R8</td> <td>855</td> <td>310.7</td> <td>36.3%</td> <td>BB</td> <td>b</td> <td>b</td> <td>AA</td> <td>a</td> <td>a</td> <td>a</td> <td>63</td> <td>1.23</td> </tr> </tbody> </table> | 着手年度 | 完了予定年度 | 事業費 (百万円) | 投資 事業費 (百万円) | 進捗率 (%) | (1) 事業進捗状況 | | (2) 社会経済情勢 | | | 参考 | | 進捗状況 | 計画変更 | 社会経済 | 評価指標 | 自然環境 | 評点 | B/C | H20 | R8 | 855 | 310.7 | 36.3% | BB | b | b | AA | a | a | a | 63 | 1.23 |
| 着手年度 | | | | | | 完了予定年度 | 事業費 (百万円) | 投資 事業費 (百万円) | 進捗率 (%) | (1) 事業進捗状況 | | (2) 社会経済情勢 | | | 参考 | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | 進捗状況 | 計画変更 | 社会経済 | 評価指標 | 自然環境 | | | | | 評点 | B/C | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| H20 | R8 | 855 | 310.7 | 36.3% | BB | b | b | AA | a | a | a | 63 | 1.23 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| <p>○総合評価に係るコメント</p> <p>①再評価の総括 「事業の進捗状況等」については、「工事の遅延等」はあるものの「事業計画の大幅な変更」がなく、今後も計画的に進捗が見込まれる状況であること、また、「社会経済情勢等の変化」については、効率的かつ安定的な林業生産活動を実現するための生産基盤として林道の必要性が高まっていることに加え、「評価指標」、「自然環境等の状況」に関して特に大きな変化が見られないことから「事業継続」と評価した。</p> <p>②特記事項 なし</p> | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| (2) 要検討、中止の場合の対応 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |

※評価対象事業の位置図、計画平面図、標準横断図等を添付のこと。

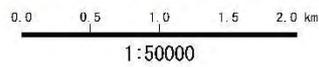
林道整備事業 鈴峠2号線 実施状況図 (1:50,000)



| 全体計画 | |
|------|-----------|
| 事業期間 | H20~R8年度 |
| 事業費 | 855,000千円 |
| 事業延長 | L=10,790m |
| 幅員 | W=4.0m |
| 利用区域 | A=463ha |

全体計画延長 L=10,790m

| 凡例 | |
|----|-------|
| | 既設区間 |
| | 実施済区間 |
| | 計画区間 |
| | 利用区域 |
| | 保安林 |
| | 経過道路 |



この地図の作成に当たっては、国土地理院長の承認を得て、同院発行の2万5千分の1地形図を使用した。(承認番号 平26情使、第72-G13MAP31783号)

公共事業 再評価調書

| 事業名 | 林道整備事業 | | 補助・単独 | 担当部課名 | 農林水産部 森林保全課 | | | | | | | | | | | | | |
|--|--|---------------------------------|----------------------------------|---------------|---------------------------------------|----------------|----------------------------|-------|-------|-----------|------------|-------------|------|--------|--------|-----|-----------------------------|------------------------------|
| 路線名等 | しんりんかんりどう 森林管理道 | しぶないちのわたりせん 渋梨一ノ渡線 | 地区名 | — | 市町村 | 大槌町 | | | | | | | | | | | | |
| 事業概要 | 〔事業根拠法令等：森林法第 4 条〕 | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | (1) 事業目的 ○解決すべき課題や事業目的 森林管理道渋梨一ノ渡線は、大槌町小槌地内に位置し、起点を町道小松野前短線、終点を町道小槌線に連絡して事業実施している。 当路線の利用区域内の森林は、町内の他地域より比較的人工林率が高いものの、林内路網の整備が遅れており、間伐など森林整備の推進に支障となっている。 本事業は、造林・保育・素材生産等の森林施業の効率化や山村地域の振興を図るとともに、健全な森林を育成するための森林整備の基盤となる林道を整備するものである。 ○整備によって得られる効果 林内路網の幹線となる林道が整備されることで、森林施業の低コスト化が図られることから、効率的で適切な森林整備の促進により、木材の安定供給や、水源涵養、県土の保全等森林の多面的機能の持続的な発揮が期待される。 | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | (2) 事業内容 全体計画延長8,015m、幅員3.0m (4.0m)、全体事業費1,476,000千円 | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | (3) 整備目標等 林内道路密度 (R16末) 22.0m/ha (大槌町) ※参考 (R3末現在) 16.0m/ha (大槌町) | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 事業着手 | H20年度 | 事業計画期 | H20 | ～ | R4 再評価時全体計画期間 H29 (当初全体計画期間) | 用地着手 | H20年度 | 工事着手 | H21年度 | | | | | | | | | |
| 事業費 | 事業費の状況 [百万円] | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | 当初計画総事業費 (うち用地費) | 前回再評価時総事業費 (H29年) (うち用地費) | 今回再評価時総事業費 (R4年) A (うち用地費) | 投資事業費 | | | 進捗率 | | | | | | | | | | | |
| | 1,230.0 (-) | 1,230.0 (-) | 1,476.0 (-) | B | R1 | C | R2 | D | R3 | E = B+C+D | 財源 | F = E/A | | | | | | |
| | | | 782.8 (-) | 92.2 (-) | 42.5 (-) | 917.5 (-) | 国庫 449.5 県 468.0 他 - | 62.2% | | | | | | | | | | |
| 事業の進捗状況等 | (1) 事業の進捗状況 | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | ア 整備効果の発現状況 全体計画延長8,015mのうち、令和3年度末までに約2.4km (進捗率30.0%) が完成し、既に一部供用開始しており、間伐等の森林整備 (116.1ha) に利用されている。 | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | イ 未着工及び工事遅延等の理由並びに解決の見通し ①理由 事業計画区域内で希少猛禽類の飛翔が確認されており、営巣木の特定のための調査を進めている。育雛期間 (4月から8月まで) は工事が実施できないなど、工期の制約があることに加え、東日本大震災津波以降の事業単価上昇の影響から事業費が増大し、単年度の整備延長が減少している。また、終点側工区において、法面崩壊が発生したことから、地質調査や対策工の検討に時間を要しており、全体計画の延長及び事業費の増が必要となった。 ②解決の見通し 法面崩壊復旧対策工法について令和4年度に調査、工法の検討を行う計画である。また、希少猛禽類の営巣木特定調査を進めており、影響範囲特定後は影響範囲外の工事から計画的に進めることで進捗を図り、期間内の竣工が見込まれる。 ○中項目評価は、希少猛禽類調査の実施、及び法面崩壊対策工法の検討による計画期間の延長が生じたものの、一定の期間を延長することにより竣工が見込まれることから「b」とした。 | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | <table border="1" style="width: 100%;"> <tr> <td>中項目評価</td> <td>a .</td> <td style="border: 2px solid black;">b</td> <td>. c</td> </tr> </table> | | | | | | | | | | 中項目評価 | a . | b | . c | | | | |
| 中項目評価 | a . | b | . c | | | | | | | | | | | | | | | |
| (2) 事業計画の変更の有無及び内容 | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| ①変更内容 | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| <table border="1" style="width: 100%;"> <tr> <th>項目</th> <th>変更前 (再評価時)</th> <th>変更後 (再々評価時)</th> </tr> <tr> <td>計画期間</td> <td>H20～R4</td> <td>H20～R9</td> </tr> <tr> <td>道路工</td> <td>延長 L=8015m 総事業費 1,230,000千円</td> <td>延長 L=8,015m 総事業費 1,476,000千円</td> </tr> </table> | | | | | | | | | | 項目 | 変更前 (再評価時) | 変更後 (再々評価時) | 計画期間 | H20～R4 | H20～R9 | 道路工 | 延長 L=8015m 総事業費 1,230,000千円 | 延長 L=8,015m 総事業費 1,476,000千円 |
| 項目 | 変更前 (再評価時) | 変更後 (再々評価時) | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 計画期間 | H20～R4 | H20～R9 | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 道路工 | 延長 L=8015m 総事業費 1,230,000千円 | 延長 L=8,015m 総事業費 1,476,000千円 | | | | | | | | | | | | | | | | |
| ②「b」と判断した理由 ○中項目評価は、上記(1)イ①の理由により計画期間及び事業費が変更となるが、大幅な変更ではないため「b」とした。 | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| <table border="1" style="width: 100%;"> <tr> <td>中項目評価</td> <td>a .</td> <td style="border: 2px solid black;">b</td> <td>. c</td> </tr> </table> | | | | | | | | | | 中項目評価 | a . | b | . c | | | | | |
| 中項目評価 | a . | b | . c | | | | | | | | | | | | | | | |
| ○中項目評価が「b」、 「b」で構成されることから大項目評価は「BB」とした。 | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| <table border="1" style="width: 100%;"> <tr> <td>評価</td> <td>AA .</td> <td>A</td> <td>. BB</td> <td>. B</td> <td>. C</td> </tr> </table> | | | | | | | | | | 評価 | AA . | A | . BB | . B | . C | | | |
| 評価 | AA . | A | . BB | . B | . C | | | | | | | | | | | | | |

(1) 事業に関する社会経済情勢

ア 全国の状況

・国では、令和3年6月に、新たな「森林・林業基本計画」を公表し、森林・林業・木材産業によるグリーン成長などの方向性が盛り込まれた。
 ・この中で、林産物の供給及び利用に関して、令和元年度に3,100万㎡の実績であった国産材の供給量を、令和7年に4,000万㎡、令和12年に4,200万㎡とすることを目標に掲げており、引き続き、傾斜区分と作業システムに応じた目標とすべき路網密度の水準を踏まえつつ、林道等の路網整備を推進することとしている。

イ 本県の状況

・県では、計画的な林道整備を推進するため、実効性の高い中期的なアクションプランとして令和元年度に「林道整備事業中期実施計画」を策定し、年間10kmの林道整備を目標に、路網密度の向上に向けて事業実施路線の早期完成に取り組んでいる。
 ・国が示している「林道整備における路網密度の水準」では、本県が目安としている中傾斜地（林地斜面の傾斜角15～30度）での林道等の林内道路密度が25～40m/haとされているが、本県の林内道路密度は令和2年度末時点では16.7m/haであるため、目指すべき水準への到達に向け、路網整備の一層の推進が必要となっている。
 ・また、県内では、東日本大震災津波で被災した製材・合板工場の復旧により建築用材の需要が回復傾向にある中、近年は、県内はもとより近県においても木質バイオマス発電施設の整備が進み、燃料用素材の需要が増大していることから、木材の安定供給体制の整備に向け、木材生産の基盤である林道等の路網整備が急務となっている。

ウ 施工地域における状況

・本路線の利用区域においては、計画当初からの年数の経過により、人工林のうち森林整備が必要とされる50年生以下の林分が約13.0%（63.8ha）となっている一方、51年生以上の成熟した林分の面積の割合が増加しており、木材生産等に向けた林道等の整備が急務となっている。
 ・本路線が位置する地域は、大槌町はもとより宮古市の合板工場から距離が約40kmと近いことから森林資源を有効に利用できる条件が整っている。

○中項目評価は、全国又は県内において、林道事業に係る政策や事業のあり方についての議論や見直しの検討がないため「a」とした。

| | | | |
|-------|---|---|---|
| 中項目評価 | a | b | c |
|-------|---|---|---|

(2) 事業に関する評価指標の推移

| 評価指標 | | 配点 | 事業着手時 評点 | 再評価時 評点(A) | 再々評価時 評点(B) | 増減 (B)-(A) | 備考 |
|------|---------------|-----|-------------|---------------|----------------|---------------|-------------------------------------|
| 必要性 | 林業効果指数 | 5 | 5 7.72 | 5 10.55 | 5 10.62 | 0 | |
| | 利用区域 森林面積 | 5 | 5 525ha | 5 513ha | 5 513ha | 0 | |
| | 定住環境 | 5 | 3 1項目 | 3 1項目 | 3 1項目 | 0 | 集落間を結ぶ路線 |
| | 要整備森林の 占有度 | 10 | 6 33% | 6 21% | 4 12% | -2 | $63.75/513 \times 100 \approx 12\%$ |
| | 地域振興 | 5 | 0 指定なし | 5 2地区 | 5 2地区 | 0 | 過疎地域 山村振興地域 |
| 重要性 | 林内路網密度 | 5 | 5 3m/ha | 5 3m/ha | 5 3m/ha | 0 | $1,500/513 \approx 3m/ha$ |
| | 基幹的路線 | 5 | 3 連絡線形 | 3 連絡線形 | 3 連絡線形 | 0 | |
| | 作業道の 整備状況 | 5 | 5 3路線 | 5 3路線 | 5 3路線 | 0 | |
| | 山地保全 | 5 | 5 4% | 5 4% | 5 4% | 0 | |
| 緊急性 | 防災対策 | 5 | 3 1項目 | 3 1項目 | 3 1項目 | 0 | 防火線 |
| | 利用計画 | 5 | 5 2項目以上 | 5 2項目以上 | 5 2項目以上 | 0 | 保育、間伐 |
| 効率性 | 費用便益比(B/C) | 30 | 30 1.53 | 10 1.11 | 10 1.16 | 0 | |
| 熟度 | 地元の協力体制 | 10 | 5 良い | 5 良い | 5 良い | 0 | |
| 計 | | 100 | 80 | 65 | 63 | -2 | (再々評価時/再評価時) 97% |

○ 費用便益分析

費用便益分析手法: 林野公共事業における事業評価マニュアル (R3.6 林野庁) (単位: 百万円)

| 区 分 | | 事業着手時 (基準年: H20) | 再評価時 (基準年: H29) | 再々評価時 (基準年: R4) |
|-------------|-------------|---------------------|--------------------|--------------------|
| 費用項目 | 全体事業費 | 1,022.0 | 1,577.3 | 2,078.9 |
| | ※維持管理費等を含む | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | 総費用 (C) | 1,022.0 | 1,577.3 | 2,078.9 |
| 便益項目 | 木材生産便益 | 743.9 | 511.9 | 1,091.3 |
| | 森林整備経費縮減等便益 | 496.8 | 691.0 | 747.5 |
| | 森林の総合利用便益 | 24.3 | 63.7 | — |
| | 災害等縮減便益 | 199.5 | 372.0 | 553.8 |
| | その他の便益 | 115.2 | 104.6 | 15.3 |
| 総便益 (B) | 1,579.7 | 1,743.2 | 2,407.9 | |
| 費用便益比 (B/C) | 1.54 | 1.11 | 1.16 | |

※費用便益分析において地域特性等考慮すべき特記事項

社会
経済
情勢
等
の
変
化

○中項目評価は、各評価指標の評点の合計が再評価時の90%以上であることから「a」とした。(97%)

○ 関連する開発プロジェクト等の状況
特になし

| | | | |
|-------|---|---|---|
| 中項目評価 | a | b | c |
|-------|---|---|---|

(3) 自然環境等の状況及び環境配慮事項

ア 動植物、地形・地質、歴史文化、景観等の状況及び岩手県自然環境保全指針による保全区分

- ・岩手県自然環境保全指針による保全区分 A
- ・希少野生動植物生息の有無 あり
- ・埋蔵文化財包蔵地の有無 あり
- ・その他特記事項

イ 環境配慮事項及び環境等への配慮に要する事業費

- ・振興局公共事業等に係る希少野生動植物調査検討委員会への付議状況 付議している

①主な助言内容

事業計画区域内に希少猛禽類の営巣地があるため、現地調査を実施し、施工時期・方法を決定する必要があると助言があった。
希少植物が生息する可能性があるため、現地調査の必要があるとの助言があった。

②対応状況

希少猛禽類について、毎年着工前に営巣の状況を確認している。
希少植物について、現地調査を実施した結果、希少種が確認されたことから保全のため移植を実施した。

③対応結果

調査結果及び対応状況を委員会に報告し、了解を得たうえで事業を実施している。

《環境等への配慮に要する経費》

- ・間伐材を使用した木製構造物を施工 (1,986千円)
- ・再生砕石を使用 (7,220千円)

○中項目評価は、自然環境保全指針の「優れた自然」の保全区分毎の保全方向に沿って積極的な対応をしていることから「a」とした。

| | | | |
|-------|---|---|---|
| 中項目評価 | a | b | c |
|-------|---|---|---|

○中項目評価が「a」「a」「a」で構成されていることから、大項目評価については「AA」とした。

| | | | | |
|----|----|---|---|---|
| 評価 | AA | A | B | C |
|----|----|---|---|---|

| コスト削減対策及び代替案立案の可能性 | <p>(1) コスト削減対策の実施状況及び今後の可能性</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 構造物設置経費の削減額 63,038千円 (擁壁工において、L形擁壁を採用等) ・ 再生資源の活用による削減額 1,621千円 (路盤工において再生砕石を使用) 計 64,659千円 <p>(2) 代替案立案の可能性</p> <p>① 代替案として考えられる他の事業手法・工法の比較検討結果 線形について、事業申請者(町)及び地権者の要望を踏まえ、開設コスト等について比較検討し、現計画としたものである。</p> <p>② 今後における代替案立案の可能性 現計画は森林整備を実施する区域を通過する線形であることに加え、本路線を幹線とした効率的な路網の形成が可能なることから、事業効果がより高い代替案の可能性はない。</p> | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
|--------------------|---|---|---|---|------------|--------|--------------|--------------------|------------|------------|-----|------------|------|--|----|--|------|------|------|------|------|----|-----|-----|----|-------|-------|-------|----|---|---|----|---|---|---|----|
| | <p>(1) 総合評価</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 20%; text-align: center;">総合評価 (対応方針案)</td> <td style="text-align: center;"> <div style="border: 1px solid black; border-radius: 50%; width: 40px; height: 40px; display: flex; align-items: center; justify-content: center; margin: 0 auto;"> 事業継続 </div> </td> <td style="width: 60%; text-align: center;"> <p>要 検 討</p> <p>・ 中 止</p> <p>(事業継続、見直し継続、休止、中止)</p> </td> </tr> </table> <p>(事業名) 林道整備事業 渋梨一ノ渡線</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse; text-align: center;"> <thead> <tr> <th rowspan="2">着手年度</th> <th rowspan="2">完了予定年度</th> <th rowspan="2">事業費 (百万円)</th> <th rowspan="2">投資 事業費 (百万円)</th> <th rowspan="2">進捗率 (%)</th> <th colspan="2">(1) 事業進捗状況</th> <th colspan="3">(2) 社会経済情勢</th> <th colspan="2">参考</th> </tr> <tr> <th>進捗状況</th> <th>計画変更</th> <th>社会経済</th> <th>評価指標</th> <th>自然環境</th> <th>評点</th> <th>B/C</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>H20</td> <td>R9</td> <td>1,476</td> <td>917.5</td> <td>62.2%</td> <td>BB</td> <td>b</td> <td>b</td> <td>AA</td> <td>a</td> <td>a</td> <td>a</td> <td>63</td> <td>1.16</td> </tr> </tbody> </table> <p>○ 総合評価に係るコメント</p> <p>① 再評価の総括 「事業の進捗状況等」については、「工事の遅延等」はあるものの「事業計画の大幅な変更」がなく、今後も計画的に進捗が見込まれる状況であること、また「社会経済情勢等の変化」については、効率的かつ安定的な林業生産活動を実現するための生産基盤として林道の必要性が高まっていることに加え、「評価指標」、「自然環境等の状況」に関して特に大きな変化が見られないことから、総合評価は「事業継続」と評価した。</p> <p>② 特記事項 なし</p> <p>(2) 要検討、中止の場合の対応</p> | 総合評価 (対応方針案) | <div style="border: 1px solid black; border-radius: 50%; width: 40px; height: 40px; display: flex; align-items: center; justify-content: center; margin: 0 auto;"> 事業継続 </div> | <p>要 検 討</p> <p>・ 中 止</p> <p>(事業継続、見直し継続、休止、中止)</p> | 着手年度 | 完了予定年度 | 事業費 (百万円) | 投資 事業費 (百万円) | 進捗率 (%) | (1) 事業進捗状況 | | (2) 社会経済情勢 | | | 参考 | | 進捗状況 | 計画変更 | 社会経済 | 評価指標 | 自然環境 | 評点 | B/C | H20 | R9 | 1,476 | 917.5 | 62.2% | BB | b | b | AA | a | a | a | 63 |
| 総合評価 (対応方針案) | <div style="border: 1px solid black; border-radius: 50%; width: 40px; height: 40px; display: flex; align-items: center; justify-content: center; margin: 0 auto;"> 事業継続 </div> | <p>要 検 討</p> <p>・ 中 止</p> <p>(事業継続、見直し継続、休止、中止)</p> | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 着手年度 | 完了予定年度 | 事業費 (百万円) | 投資 事業費 (百万円) | 進捗率 (%) | (1) 事業進捗状況 | | (2) 社会経済情勢 | | | 参考 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | | | | | 進捗状況 | 計画変更 | 社会経済 | 評価指標 | 自然環境 | 評点 | B/C | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| H20 | R9 | 1,476 | 917.5 | 62.2% | BB | b | b | AA | a | a | a | 63 | 1.16 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |

※評価対象事業の位置図、計画平面図、標準横断図等を添付のこと。

| | | | | | | | | | | | | | |
|---|--|-------------------|--------------------|-----------------|--------------------------|-----------------------|-------------|--------------|-----------|------------|-----------|------------|-----------|
| 事業名 | 地域連携道路整備事業 (地域密着型) | | 補助 単独 | 担当部課名 | 県土整備部 道路建設課 | | | | | | | | |
| 路線名等 | 一般県道北上和賀線 | 地区名 | こたなか 小田中 | | 市町村 | 北上市 | | | | | | | |
| 事業概要 | 〔事業根拠法令等：道路法第12条、第50条〕 | | | | | | | | | | | | |
| | <p>(1) 事業目的</p> <p>○路線の位置付け</p> <ul style="list-style-type: none"> 一般県道北上和賀線は、北上市相去町を起点とし、東北横断自動車道北上西インターチェンジに接続する主要地方道北上西インター線を終点とする路線である。 地域住民の通勤・通学や救急医療施設へのアクセス等の生活道路であるほか、主要幹線道路である国道107号の代替路線の役割を担う重要路線である。 <p>○整備によって得られる効果</p> <ul style="list-style-type: none"> 交通あい路区間の解消、通過車両や歩行者の安全性・快適性の向上により、安全で円滑な交通の確保が図られる。 <p>(2) 事業内容</p> <ul style="list-style-type: none"> 計画延長：L=1,860m、計画幅員：W=6.0(11.5)m、主要構造物：橋梁 1 基 <p>(3) 整備目標等</p> <ul style="list-style-type: none"> 大型車のすれ違い困難箇所の解消、歩行者の安全性や快適性の向上（歩道設置延長）：1,860m | | | | | | | | | | | | |
| | 事業着手 | H25年度 | 事業計画期 間 | H25 ～ R7 H30 | 再評価時全体計画期間 (当初全体計画期間) | 用地着手 | H28年度 | 工事着手 | H30年度 | | | | |
| 要 | 当初計画総事業費 (H25年) (うち用地費) | | 再評価時総事業費 (R4年)A | | 事業費の状況 [百万円] | | | 進捗率 F=E/A | | | | | |
| | 900.0 (64.0) | 1,600.0 (64.3) | H25年～ R2年 B | R3年 C | R4年 D | 投資事業費 E=B+C+D | | | | | | | |
| | | | 987.6 (55.1) | 284.3 (0.2) | 128.7 (2.0) | 1,400.6 (57.3) | 財 源 | | | | | | |
| | | | | | 国庫 | 694.1 | 87.5% | | | | | | |
| | | | | | 県 | 706.5 | | | | | | | |
| | | | | | 他 | 0.0 | | | | | | | |
| 事業の進捗状況等 | (1) 事業の進捗状況 | | | | | | | | | | | | |
| | <p>ア 整備効果の発現状況</p> <ul style="list-style-type: none"> 現在、1,860mのうち1,200mの整備が完了しており、一部区間において通行の安全性・快適性が向上している。 <p>イ 未着工及び工事遅延等の理由並びに解決の見通し</p> <p>① 理由</p> <p>事業費の増額に伴い、県内道路事業の予算配分状況を踏まえた予算配分の見直しにより、当初評価時より7年延伸が必要となった。</p> <p>② 解決の見通し</p> <p>令和3年度に主要構造物である橋梁が供用済であること、県内道路事業の予算配分状況を踏まえた事業費の確保を図っていくことから、事業完了の見通しが立っている。</p> <p>○中項目評価は、完了予定年度を前回評価時より7年延伸したが、完成の見通しが立っていることから「b」とした。</p> | | | | | | | | | | | | |
| | | | | | 中項目評価 | | a , (b) , c | | | | | | |
| (2) 事業計画の変更の有無及び内容 | | | | | | | | | | | | | |
| <p>総事業費 (事前評価時) 900百万円 → (再評価時) 1,600百万円</p> <p>【事業費】</p> <ul style="list-style-type: none"> 道路改良工事による増額(脆弱な地質が確認されたことによる置換工の追加や防雪柵の基礎杭の増工) <table border="1"> <tr> <td>増額費用</td> <td>700,000千円</td> </tr> <tr> <td>道路改良工による増額</td> <td>460,000千円</td> </tr> <tr> <td>社会的要因による増額</td> <td>240,000千円</td> </tr> </table> <ul style="list-style-type: none"> 社会的要因による増額 (単価・労務費や資材単価等の上昇) <p>○金額が増額となったものの、事業内容に大幅な変更はないため中項目評価を「b」とした。</p> | | | | | | | | 増額費用 | 700,000千円 | 道路改良工による増額 | 460,000千円 | 社会的要因による増額 | 240,000千円 |
| 増額費用 | 700,000千円 | | | | | | | | | | | | |
| 道路改良工による増額 | 460,000千円 | | | | | | | | | | | | |
| 社会的要因による増額 | 240,000千円 | | | | | | | | | | | | |
| | | | | 中項目評価 | | a , (b) , c | | | | | | | |
| ○中項目評価が「b」、 「b」であることから、大項目評価を「BB」とした。 | | | | | | | | | | | | | |
| | | | | 評 価 | | AA , A , (BB) , B , C | | | | | | | |

(1) 事業に関する社会経済情勢

ア 全国の状況

- ・「被災地の復旧・復興、防災減災対策」、「社会資本の老朽化への対応」、「国民生活の安全・安心の確保」、「生産性を向上させる社会資本整備」、「魅力ある地域づくり」等、広域な分野にわたって重要な政策を展開している。
- ・近年激甚化している災害により全国で大きな被害が頻発している状況から、国土強靱化基本法に基づき平成30年12月に閣議決定された「国土強靱化基本計画」や、令和2年12月に閣議決定された「防災・減災、国土強靱化のための5か年加速化対策」について、集中的に取り組んでいくこととしている。
- ・広域にわたる人や物の流れを活発にすることを通じて地域を活性化することを目的として、複数都道府県が連携して作成する広域的地域活性化基盤整備計画に基づく基盤整備事業等を推進することとしている。

イ 本県内の状況

- ・「いわて県民計画」においては、産業を支える社会資本の整備や安全で安心な暮らしを支える社会資本の整備を重点的な政策の柱として掲げている。この中で、地域産業の競争力の向上を目指し、工業製品や農林水産物等の物流の円滑化を図る幹線道路ネットワークの構築を行うとともに、地域間の交流・連携の基盤となる広域振興圏相互や隣接県を結ぶ道路の整備を推進し、通勤・通学などの日常生活を支える道路整備を進めることとしている。

ウ 施工地域における状況

- ・北上市から当該道路の整備促進について要望がある。

○ 中項目評価は、本県及び施工地域において議論や見直しの検討は無いことから「a」とした。

| | | | |
|-------|-----|---|---|
| 中項目評価 | (a) | b | c |
|-------|-----|---|---|

社会
経済
情勢
等
の
変
化

| 評価指標 | 配点 | 事業着手時 評点(A) H25 | 今回再評価時 評点(B) R4 | 増減 (B)-(A) | 備考 | |
|------|--------------------------------------|-----------------------|--------------------------------------|---|-----------------------|-----------------------------|
| 必要性 | 車道等幅員 | 5 | 4 <small>(現況幅員<規定値-1m)</small> | 4 <small>(現況幅員<規定値-1m)</small> | 0 | 現況最小幅員7.0m <規定値-1m(8.0m) |
| | 曲線半径 | 5 | 3 <small>(現況半径<規定値)</small> | 3 <small>(現況半径<規定値)</small> | 0 | 現況最小曲線半径100m <規定値(150m) |
| | 縦断勾配 | 5 | 0 <small>(現況勾配≤規定値)</small> | 0 <small>(現況勾配≤規定値)</small> | 0 | 現況最急縦断勾配2.3% <規定値(5%) |
| | 歩道設置の必要性 | 3 | 3 <small>(1項目以上該当)</small> | 3 <small>(1項目以上該当)</small> | 0 | 人家連担地区 前後区間の連続性 |
| | 混雑度 | 2 | 0 <small>(現況混雑度<1.0)</small> | 0 <small>(現況混雑度<1.0)</small> | 0 | 混雑度0.33<1.0 |
| | 定時性 | 2 | 0 <small>(5.0km/h未満)</small> | 0 <small>(5.0km/h未満)</small> | 0 | 速度差4.6km/h |
| | 事故率 | 3 | 0 <small>(履歴無)</small> | 0 <small>(履歴無)</small> | 0 | 0件億台* |
| | 過疎地域等の振興 | 5 | 0 <small>(該当なし)</small> | 0 <small>(該当なし)</small> | 0 | 北上市 |
| | 計 | 30 | 10 | 10 | 0 | |
| 重要性 | ネットワークの位置付け | 5 | 4 <small>広域振興圏内の主要都市を結ぶ路線</small> | 3 <small>広域振興圏内の主要都市へのアクセス道路</small> | -1 | |
| | 産業振興、生活支援 | 15 | 12 <small>(3項目)</small> | 12 <small>(3項目)</small> | 0 | 物流支援、観光支援、交通 拠点アクセス |
| | 計 | 20 | 16 | 15 | -1 | |
| 緊急性 | 関連事業の有無 | 5 | 0 <small>(無)</small> | 0 <small>(無)</small> | 0 | |
| | 冠水区間、主要渋滞ポイント、老朽橋、 交通不能区間、通行危険箇所等 | 5 | 5 <small>(通行危険箇所所有)</small> | 5 <small>(通行危険箇所所有)</small> | 0 | 通行危険箇所 (車両すれ違い困難箇所) |
| | 部分供用の有無 | 2 | 2 <small>(有)</small> | 2 <small>(有)</small> | 0 | |
| | 10km以内に迂回道路 | 3 | 0 <small>(有)</small> | 0 <small>(有)</small> | 0 | |
| | 計 | 15 | 7 | 7 | 0 | |
| 効率性 | 費用便益費(B/C) | 20 | 18 <small>(B/C=2.6)</small> | 15 <small>(B/C=1.0)</small> | -3 | |
| | 計 | 20 | 18 | 15 | -3 | |
| 熟度 | 用地取得の進捗状況 | 3 | 0 <small>(0%)</small> | 3 <small>(60%以上)</small> | 3 | 用地進捗率：86% |
| | 地元要望 | 12 | 12 <small>(有)</small> | 12 <small>(有)</small> | 0 | |
| | 計 | 15 | 12 | 15 | 3 | |
| 計 | 100 | 63 | 62 | -1 | (今回再評価/前回事前評価) 98% | |

○費用便益分析（全線供用による便益計算）

費用便益分析手法：費用便益分析マニュアル（H30.2月）、道路投資の評価に関する指針（案）第1編（H10.6月）、第2編（H11.11月）

（単位：百万円）

| 区分 | | 事業着手時 (基準年：H25) | 再評価時 (基準年：R4) |
|----------------------------|---------------|--------------------|------------------|
| 費用項目 | 改築費 | 694.1 | 1,602.6 |
| | 維持費 | 81.2 | 58.6 |
| | 総費用 (C) | 775.3 | 1,661.2 |
| 便益項目 | 時間短縮便益 | 207.4 | 303.5 |
| | 走行経費減少便益 | 3.5 | 0.5 |
| | 事故減少便益 | 0.0 | 0.0 |
| | 3便益 ① | 210.9 | 304.0 |
| | 環境改善便益 | -4.8 | 0.3 |
| | 拡張便益 | 1,182.3 | 1,453.5 |
| | その他便益 ② | 1,177.5 | 1,453.8 |
| | 小計 ①+② | 1,388.4 | 1,757.8 |
| | 修正便益 ③ | 691.4 | 1,070.3 |
| | 総便益 (B) ①+②+③ | 2,079.8 | 2,828.1 |
| 費用便益比 B (①+②) / C | | 1.7 | 1.0 |
| (参考) 修正費用便益比 B (①+②+③) / C | | 2.6 | 1.7 |
| 将来交通量 | | 2,070台/日 (R12) | 2,560台/日 (R12) |

※費用便益分析において地域特性等考慮すべき特記事項

- ・参考として、地域補正係数による修正便益を考慮したB/Cを算出している。

○関連する開発プロジェクト等の状況

特になし

- 中項目評価は、各評価指標の評点の合計が前回再評価時の90%以上であるため、「a」とした。

中項目評価 (a), b, c

(3) 自然環境等の状況及び環境配慮事項

ア 動植物、地形、地質、歴史文化、景観等の状況及び岩手県自然環境保全指針による保全区分

- ・岩手県自然環境等保全指針による保全区分 B

- ・希少野生動植物生息の有無 有

- ・埋蔵文化財包蔵地の有無 有

- ・その他

イ 環境配慮事項及び環境等への配慮に要する事業費

- ・事業実施にあたり、振興局で開催される希少野生動植物調査検討委員会に諮り、有識者から施工に対する意見等はなく了承いただいている。

- ・施工にあたっては、排ガス対策及び低騒音型建設機械の使用、再生アスファルト合材及び再生砕石の使用を基本としている。

- ・埋蔵文化財包蔵地については、関係機関と協議のうえ調査等を実施した。

《環境等への配慮に要する経費》

- ・再生AS合材や再生砕石を使用 14,000 千円

- 中項目評価は、自然環境保全指針の「優れた自然」の保全区分毎の保全方向に沿って、積極的な対応をしていることから、「a」とした。

中項目評価 (a), b, c

- 中項目評価が「a」、「a」、「a」であることから、大項目評価を「AA」とした。

評価 (AA), A, B, C

社会
経
済
情
勢
等
の
変
化

コスト削減対策及び代替案立案の可能性

(1) 代替案立案の可能性

代替案として考えられる他の事業手法

事業区間のルートは、下記理由により代替案立案の可能性は無い。

- ・ 現道拡幅を基本としており、全体延長1,860mのうち1,200mが完了していること。
- ・ 残り660mについて、概ね用地買収が完了しており、代替案検討の余地がないこと。

(1) 総合評価

| | |
|-----------------|--|
| 総合評価 (対応方針案) | <div style="display: flex; justify-content: space-around; align-items: center;"> <div style="border: 1px solid black; border-radius: 50%; padding: 5px;">事業継続</div> ・ <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;">要検討</div> ・ <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;">中止</div> </div> <p style="font-size: small; margin-top: 5px;">〔事業継続、見直し継続、休止、中止〕</p> |
|-----------------|--|

(事業名) 地域連携道路整備事業(地域密着型) 一般県道北上和賀線 小田中

| 着手年度 | 完了予定年度 | 投資事業費 (百万円) | 進捗率 (%) | (1) 事業進捗状況 | | | (2) 社会経済情勢 | | | 参考 | | |
|------|--------|----------------|------------|------------|------|---|------------|------|------|----|-----|-----|
| | | | | 進捗状況 | 計画変更 | | 社会経済 | 評価指標 | 自然環境 | 評点 | B/C | |
| H25 | R7 | 1,600.0 | 87.5% | BB | b | b | AA | a | a | a | 62 | 1.0 |

(修正B/C=1.7)

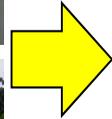
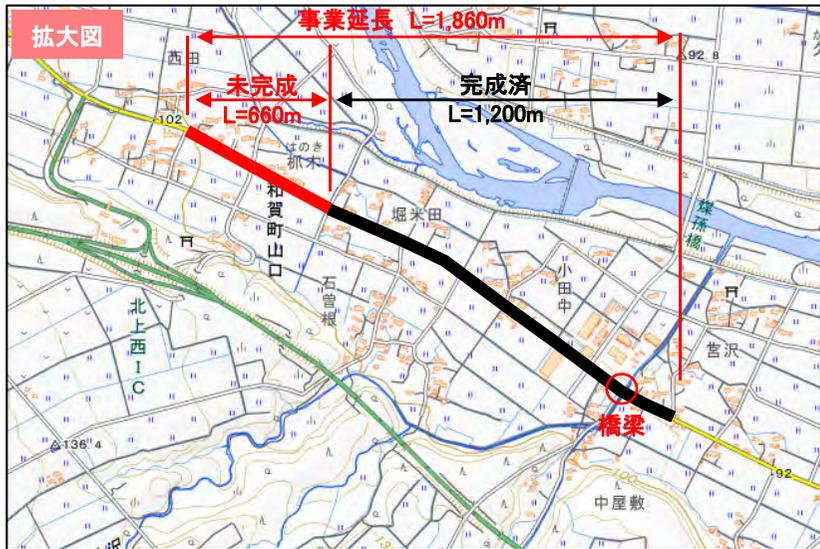
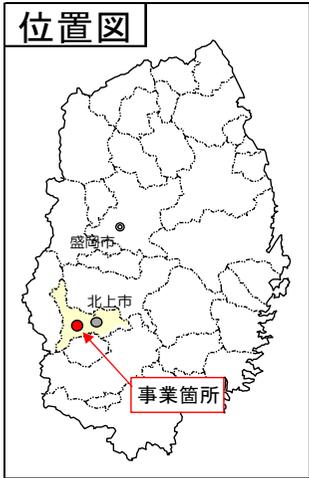
○総合評価に係るコメント

【再評価の総括】

- ・ 「事業の進捗状況等」については、事業期間を延伸したほか、脆弱な地質が確認されたことに伴う工法変更等により事業費が増額となったが、令和3年度に主要構造物である橋梁が供用済みであり、県内道路事業の予算配分状況を踏まえた事業費の確保を図っていくことから、確実な事業推進が見込まれている。
- ・ 「社会経済情勢の変化」について、大きな変化は見られないことから、引き続き整備を進めていく。
- ・ 以上のことから「事業継続」としたものである。

総合評価

地域連携道路整備事業(地域密着型) (一)北上和賀線 小田中 実施状況図



| | | | | |
|------|-----------------------|-------|--------------------|-------------|
| 事業名 | 地域連携道路整備事業 (地域密着型) | 補助 単独 | 担当部課名 | 県土整備部 道路建設課 |
| 路線名等 | 一般県道普代小屋瀬線 | 地区名 | まつばやしきかもと 松林～坂本 | 市町村 岩泉町 |

〔事業根拠法令等：道路法第12条、第50条〕

(1) 事業目的

○路線の位置付け

- 一般県道普代小屋瀬線は、普代村を起点とし、岩泉町安家の松林から坂本を経て、葛巻町に至る路線で、地域住民の通勤、通学路となっている生活道路であるほか、第三次救急医療施設である県立久慈病院へ続く、当該地区唯一の重要路線である。
- 当該地区は、幅員狭小かつ線形不良であり、大型車のすれ違いが困難であること、急カーブが連続して視距不足であることから、安全な通行の支障となっている。
- なお、平成28年の台風第10号の影響に伴い、当該路線全体で道路決壊等の被害を受けた。

○整備によって得られる効果

- 幅員狭小や線形不良箇所の改良、待避所の整備により、通行車両の安全で円滑な交通が確保される。
- 地域住民の要望を反映させた整備であり、少ない費用で早期に整備効果の発現が得られる。

(2) 事業内容

- 計画延長：L=1,530m、計画幅員：W=4.0(5.0)m
- 1.5車線の道路整備事業（視距確保、待避所設置）

※1.5車線の道路整備事業とは、比較的交通量の少ない地域において、全線2車線にこだわらず、普通車両がすれ違える幅を一定区間確保するために拡幅整備を行う1車線改良や急カーブの改良、待避所の設置などを効果的に組み合わせ、地域の実情に合った道路の整備を実施するものである。

(3) 整備目標等

- 大型車すれ違い困難箇所の解消：1,060m
- 安全性、快適性の向上（視距の確保）：470m

| | | | | | | | | |
|------|------------------------|------------------------|-------------------|--------------------------|---------------|------------------|----------------------------|--------------|
| 事業着手 | H25年度 | 事業計画期 | H25 ~ R9 H29 | 再評価時全体計画期間 (当初全体計画期間) | 用地着手 | H27年度 | 工事着手 | H26年度 |
| 事業費 | 当初計画 総事業費 (H25年) | 再評価時 総事業費 (R4年)A | 事業費の状況 [百万円] | | | | | |
| | (うち用地費) | (うち用地費) | H25年～ R2年 B | R3年 C | R4年 D | 投資事業費 E=B+C+D | 財源 | 進捗率 F=E/A |
| | 250.0 (2.0) | 350.0 (1.8) | 132.3 (0.8) | 2.0 (0.0) | 10.0 (0.0) | 144.3 (0.8) | 国庫 86.8 県 57.5 他 0.0 | 41.2% |

(1) 事業の進捗状況

ア 整備効果の発現状況

- 令和3年度末までに250m（2工区）が整備済みであり、一部区間において通行車両の安全性が確保されている。

イ 未着工及び工事遅延等の理由並びに解決の見通し

① 理由

- 県内道路事業の全体事業費を踏まえた予算配分の見直しによる7年間の延伸
- 平成28年台風第10号の被災に伴い、路線全体において災害復旧工事を優先的に進めたことで、当該工区への工事車両の進入が困難となったため、平成28年度から平成30年度までゼロ予算として措置し、事業工程が遅延（3年間）

② 解決の見通し

台風第10号の災害復旧工事が完了した平成31年度から事業を再開しており、用地取得を先行して進め、用地取得完了後に複数箇所の工事発注をすることで効率的に工事を進められることから、事業完了の見通しが立っている。

○ 中項目評価は、完了予定年度を前回評価時より10年延伸したが、完成の見通しが立っていることから「b」とした。

中項目評価 a , **b** , c

(2) 事業計画の変更の有無及び内容

| | | | |
|----------------|--------------------|--------------------|-------------|
| | 事業着手時 | 再評価時 | |
| 事業箇所 (事業延長) | 10箇所 (L=2,000m) | 10箇所 (L=1,530m) | |
| 全体事業費 | 250,000 千円 | 350,000 千円 | |
| 増減額内訳 | 増減額計 | | 100,000 千円 |
| | 計画延長の縮減 | | ▲ 19,000 千円 |
| | 擁壁工への工法変更 | | 61,000 千円 |
| | 社会的要因による増 | | 58,000 千円 |

地域住民との詳細な調整により、計画延長が減となったが、箇所数に変更はない。また、工法変更等による増額があったが、事業計画の変更内容が大幅なものではないため中項目評価を「b」とした。

中項目評価 a , **b** , c

○ 中項目評価が「b」、「b」であることから、大項目評価を「BB」とした。

評価 AA , A , **BB** , B , C

(1) 事業に関する社会経済情勢

ア 全国の状況

- ・「被災地の復旧・復興、防災減災対策」、「社会資本の老朽化への対応」、「国民生活の安全・安心の確保」、「生産性を向上させる社会資本整備」、「魅力ある地域づくり」等、広域な分野にわたって重要な政策を展開している。
- ・近年激甚化している災害により全国で大きな被害が頻発している状況から、国土強靱化基本法に基づき平成30年12月に閣議決定された「国土強靱化基本計画」や、令和2年12月に閣議決定された「防災・減災、国土強靱化のための5か年加速化対策」について、集中的に取り組んでいくこととしている。
- ・広域にわたる人や物の流れを活発にすることを通じて地域を活性化することを目的として、複数都道府県が連携して作成する「広域的地域活性化基盤整備計画」に基づく基盤整備事業等を推進することとしている。

イ 本県内の状況

- ・「いわて県民計画」においては、産業を支える社会資本の整備や安全で安心な暮らしを支える社会資本の整備を重点的な政策の柱として掲げている。この中で、地域産業の競争力の向上を目指して工業製品や農林水産物等の物流の円滑化を図る幹線道路ネットワークの構築を行うこと、地域間の交流・連携の基盤となる広域振興圏相互や隣接県を結ぶ道路の整備を推進すること、通勤・通学などの日常生活を支える道路整備を進めることを取り組みとして定めている。

ウ 施工地域における状況

- ・岩泉町より当該道路の整備促進について要望がある。

○ 中項目評価は、本県及び施工地域において議論や見直しの検討は無いことから「a」とした。

中項目評価 (a) , b , c

社会
経済
情勢
等
の
変
化

| 評価指標 | 配点 | 事業着手時 評点(A) H25 | 今回再評価時 評点(B) R4 | 増減 (B)-(A) | 備考 | |
|------|----------------------------------|-----------------------|---|---|-----------------------|-----------------------------------|
| 必要性 | 車道等幅員 | 5 | 5 <small>(現況幅員<規定値-2m)</small> | 5 <small>(現況幅員<規定値-2m)</small> | 0 | 現況最小幅員3.5m <規定値-2m(4m) |
| | 曲線半径 | 5 | 5 <small>(現況半径<-10km/h縮小値)</small> | 5 <small>(現況半径<-10km/h縮小値)</small> | 0 | 現況最小曲線半径12.5m <-10km/h縮小値(30m) |
| | 縦断勾配 | 5 | 0 <small>(現況勾配≤既定値)</small> | 0 <small>(現況勾配≤既定値)</small> | 0 | 現況最急縦断勾配4.4% <規定値(8%) |
| | 歩道設置の必要性 | 3 | 0 <small>(該当なし)</small> | 0 <small>(該当なし)</small> | 0 | |
| | 混雑度 | 2 | 0 <small>(現況混雑度<1.0)</small> | 0 <small>(現況混雑度<1.0)</small> | 0 | 混雑度0.45<1.0 |
| | 定時性 | 2 | 1 <small>(5.0km/h以上10.0km/h未満)</small> | 1 <small>(5.0km/h以上10.0km/h未満)</small> | 0 | 速度差5.0km/h |
| | 事故率 | 3 | 3 <small>(履歴有)</small> | 0 <small>(履歴無)</small> | -3 | 発生無し |
| | 過疎地域等の振興 | 5 | 5 <small>(過疎市町村かつ山村振興地域)</small> | 5 <small>(過疎市町村かつ山村振興地域)</small> | 0 | 岩泉町 |
| | 計 | 30 | 19 | 16 | -3 | |
| 重要性 | ネットワークの位置付け | 5 | 2 <small>その他の路線</small> | 2 <small>その他の路線</small> | 0 | |
| | 産業振興、生活支援 | 15 | 12 <small>(3項目)</small> | 15 <small>(4項目)</small> | 3 | 林業支援、観光支援、公共施設アクセス、ローカリストANDARD |
| | 計 | 20 | 14 | 17 | 3 | |
| 緊急性 | 関連事業の有無 | 5 | 0 <small>(無)</small> | 0 <small>(無)</small> | 0 | |
| | 冠水区間、主要渋滞ポイント、老朽橋、交通不能区間、通行危険箇所等 | 5 | 5 <small>(通行危険箇所所有)</small> | 5 <small>(通行危険箇所所有)</small> | 0 | 通行危険箇所 (車両すれ違い困難箇所) |
| | 部分供用の有無 | 2 | 2 <small>(有)</small> | 2 <small>(有)</small> | 0 | |
| | 10km以内に迂回道路 | 3 | 3 <small>(無)</small> | 3 <small>(無)</small> | 0 | |
| 計 | 15 | 10 | 10 | 0 | | |
| 効率性 | 費用便益費(B/C) | 20 | 15 <small>(B/C=1.2)</small> | 7 <small>(B/C=0.7)</small> | -8 | |
| | 計 | 20 | 15 | 7 | -8 | |
| 熟度 | 用地取得の進捗状況 | 3 | 0 <small>(0%)</small> | 2 <small>(30%以上60%以下)</small> | 2 | 用地進捗率：44% |
| | 地元要望 | 12 | 12 <small>(有)</small> | 12 <small>(有)</small> | 0 | |
| | 計 | 15 | 12 | 14 | 2 | |
| 計 | 100 | 70 | 64 | -6 | (今回再評価/前回事前評価) 91% | |

○費用便益分析

費用便益分析手法：費用便益分析マニュアル（H30.2月）、道路投資の評価に関する指針（案）第1編（H10.6月）、第2編（H11.11月）

（単位：百万円）

| 区分 | | 事業着手時 (基準年：H25) | 再評価時 (基準年：R4) |
|----------------------------|---------------|--------------------|------------------|
| 費用項目 | 改築費 | 207.6 | 332.6 |
| | 維持費 | 90.7 | 29.7 |
| | 総費用 (C) | 298.3 | 362.3 |
| 便益項目 | 時間短縮便益 | 0.0 | 0.0 |
| | 走行時間減少便益 | 0.0 | 0.0 |
| | 事故減少便益 | 0.0 | 0.0 |
| | 3 便益 ① | 0.0 | 0.0 |
| | 環境改善便益 | 0.0 | 0.0 |
| | 拡張便益 | 222.5 | 257.6 |
| | その他便益 ② | 222.5 | 257.6 |
| | 小計 ①+② | 222.5 | 257.6 |
| | 修正便益 ③ | 136.8 | 163.5 |
| | 総便益 (B) ①+②+③ | 359.3 | 421.1 |
| 費用便益比 B (①+②) / C | | 0.8 | 0.7 |
| (参考) 修正費用便益比 B (①+②+③) / C | | 1.2 | 1.1 |
| 将来交通量 | | 264台/日 (R12) | 252台/日 (R12) |

※費用便益分析において地域特性等考慮すべき特記事項

- ・ 参考として、地域補正係数による修正便益を考慮したB/Cを算出している。

○関連する開発プロジェクト等の状況

特になし

- 中項目評価は、各評価指標の評点の合計が事業着手時の90%以上であるため、「a」とした。

中項目評価 (a) , b , c

(3) 自然環境等の状況及び環境配慮事項

ア 動植物、地形、地質、歴史文化、景観等の状況及び岩手県自然環境保全指針による保全区分

- ・ 岩手県自然環境等保全指針による保全区分 D
- ・ 希少野生動植物生息の有無 有
- ・ 埋蔵文化財包蔵地の有無 有
- ・ その他

イ 環境配慮事項及び環境等への配慮に要する事業費

- ・ 事業実施にあたっては、振興局等で開催される希少野生動植物調査検討委員会に諮り、有識者等の助言を受けながら、必要に応じて現地調査を行うなど、影響への影響が極力少なくなるよう配慮しながら進めることとする。
- ・ 施工にあたっては、排ガス対策及び低騒音型建設機械の使用、再生アスファルト合材及び再生砕石の使用を基本としている。
- ・ 埋蔵文化財包蔵地については、関係機関と協議のうえ、調査等を実施した。

《環境等への配慮に要する経費》

- ・ 再生AS合材や再生砕石を使用 1,660 千円

- 中項目評価は、自然環境保全指針の「優れた自然」の保全区分毎の保全方向に沿って、積極的な対応をしていることから、「a」とした。

中項目評価 (a) , b , c

- 中項目評価が「a」、「a」、「a」であることから、大項目評価を「AA」とした。

評価 (AA) , A , B , C

社会
経済
情勢
等
の
変
化

コスト削減対策及び代替案立案の可能性

- (1) コスト削減対策の実施状況及び今後の可能性
- ・ 発生土を工区内流用したこと 15,000千円
 - ・ 現道部分を最大限活用した拡幅案とし、地形の改変を最小限としている。
- (2) 代替案立案の可能性
- 代替案として考えられる他の事業手法
- 事業区間のルートは、下記理由により代替案立案の可能性は無い。
- ・ 一車線改良や待避所の整備等により、少ない経費で早期に整備効果の発現を目指す事業手法を採用していること。
 - ・ 住民懇談会を開催し、地域の方々の合意を得て進めているものであること。

(1) 総合評価



(事業名) 地域連携道路整備事業(地域密着型) 一般県道普代小屋瀬線 松林～坂本

| 着手年度 | 完了予定年度 | 投資事業費(百万円) | 進捗率(%) | (1)事業進捗状況 | | (2)社会経済情勢 | | | 参考 | | | |
|------|--------|------------|--------|-----------|------|-----------|------|------|----|-----|----|-----|
| | | | | 進捗状況 | 計画変更 | 社会経済 | 評価指標 | 自然環境 | 評点 | B/C | | |
| H25 | R9 | 350.0 | 41.2% | BB | b | b | AA | a | a | a | 64 | 0.7 |

(修正B/C=1.1)

○総合評価に係るコメント

①再評価の総括

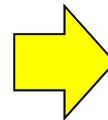
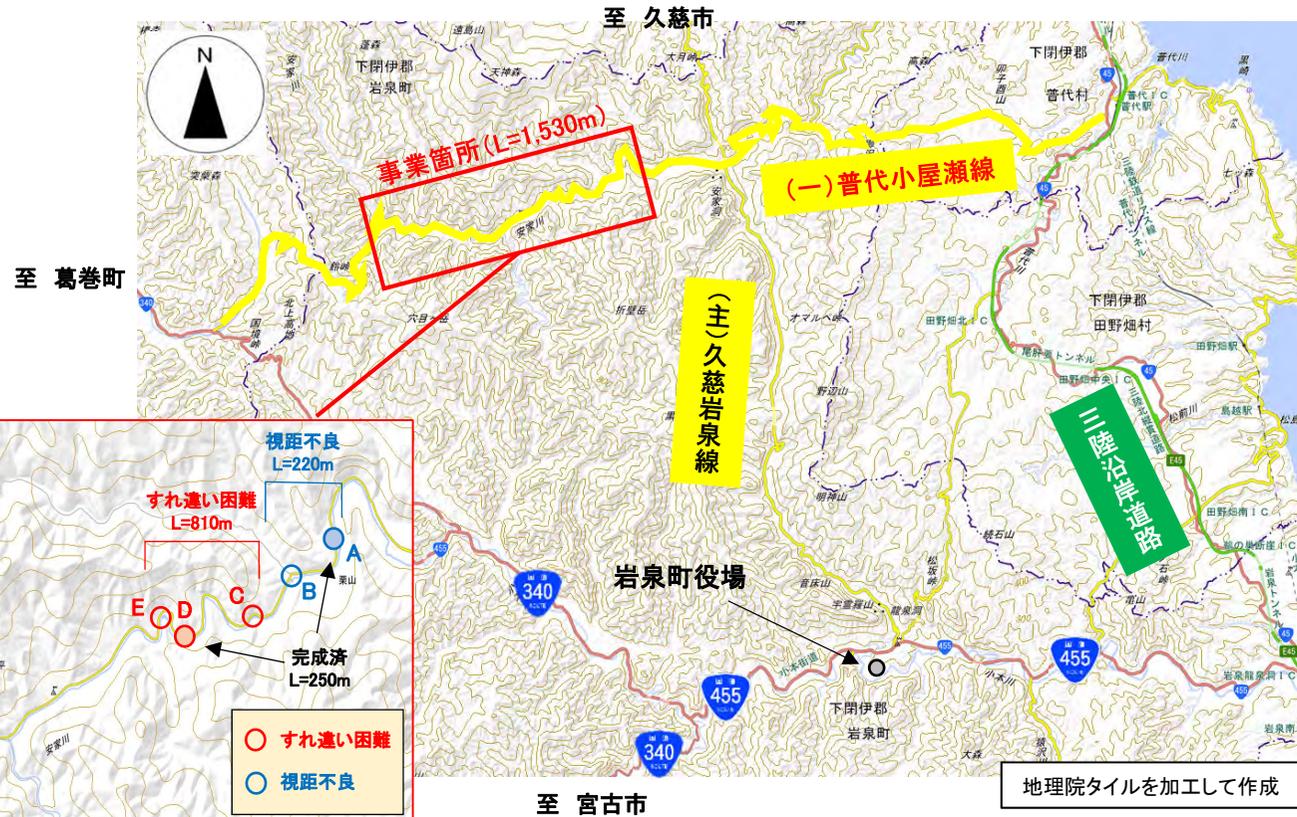
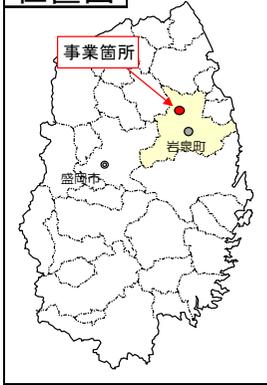
- ・ 「事業の進捗状況等」については、現地測量の結果から、地域住民との詳細な調整をしたことにより、計画延長は減となったが、事業箇所(10工区)に変更はない。また、事業着手後の工法変更等により事業費が増額となったが、県内道路事業の全体事業費の予算状況を踏まえて、事業期間を延伸したことから、確実な事業推進が見込まれている。
- ・ 「社会経済情勢等の変化」については、大きな変更は見られないことから、引き続き整備を進めていく。
- ・ また、本事業においては、1.5車線の道路整備事業として実施しているものであり、地域住民の合意形成を図りながら進める事業のため、地域の実情に合った道路整備を進めていく必要がある。

以上のことから「事業継続」としたものである。

総合評価

地域連携道路整備事業(地域密着型) (一)普代小屋瀬線 松林～坂本 実施状況図

位置図



詳細審議対象地区の選定について

参考資料

| 番号 | 課名 | 事業名 | 路線名等・箇所名 | 事業計画 | | | 総合評価 (対応方針) | 再評価の要件 | (参考)事業の進捗状況等 | | | | | 詳細審議対象地区 |
|----|----|-----|----------|------|--------|-----------|----------------|--------|--------------|-------|----------------------|------------------------|-------------------------------|----------|
| | | | | 着手年度 | 完了予定年度 | 総事業費(百万円) | | | 1 随時再評価 | 2 未着工 | 3 再評価の中項目評価に「c」があるもの | 4 前回再評価の答申に付帯意見が付されたもの | 5 進捗率90%未満かつ同一事業のうち総事業費が大きいもの | |

農林水産部

| | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
|---|-------|-----------------|-----------------|-----|----|---------|------|---|---|---|---|---|---|-------|-----|-------|---------|---|
| 1 | 農村建設課 | 中山間総合整備事業(生産基盤) | 市野々地区(一関市) | H25 | R7 | 3,965 | 事業継続 | ② | × | × | × | - | ○ | 1,322 | 50% | 88.4% | 458 | ○ |
| 2 | 農村建設課 | 農道整備事業 | 上野2期地区(一戸町) | H25 | R8 | 1,025.5 | 事業継続 | ② | × | × | × | - | × | 170 | 20% | 22.1% | 799.1 | |
| 3 | 森林保全課 | 林道整備事業 | 八木玉川線(洋野町) | H20 | R6 | 1,190 | 事業継続 | ③ | × | × | × | × | × | 0 | 0% | 82.8% | 204.6 | |
| 4 | 森林保全課 | 林道整備事業 | 甫嶺線(大船渡市) | H25 | R9 | 900 | 事業継続 | ② | × | × | × | - | × | 0 | 0% | 29.3% | 635.9 | |
| 5 | 森林保全課 | 林道整備事業 | 安孫・平糠線(一戸町・葛巻町) | H20 | R9 | 2,932.6 | 事業継続 | ③ | × | × | × | × | ○ | 578 | 25% | 60.3% | 1,165.2 | ○ |
| 6 | 森林保全課 | 林道整備事業 | 鈴峠2号線(葛巻町) | H20 | R9 | 855 | 事業継続 | ③ | × | × | × | × | × | 0 | 0% | 36.3% | 544.3 | |
| 7 | 森林保全課 | 林道整備事業 | 渋梨一ノ渡線(大槌町) | H20 | R9 | 1,476 | 事業継続 | ③ | × | × | × | × | × | 246 | 20% | 62.2% | 558.5 | |

県土整備部

| | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
|---|-------|-------------------|--------------------------|-----|----|-------|------|---|---|---|---|---|---|-----|-----|-------|-------|---|
| 8 | 道路建設課 | 地域連携道路整備事業(地域密着型) | 一般県道北上和賀線 小田中(北上市) | H25 | R7 | 1,600 | 事業継続 | ② | × | × | × | - | ○ | 700 | 78% | 87.5% | 199.4 | ○ |
| 9 | 道路建設課 | 地域連携道路整備事業(地域密着型) | 一般県道普代小屋瀬線 松林～坂本(岩泉町) | H25 | R9 | 350 | 事業継続 | ② | × | × | × | - | × | 100 | 40% | 41.2% | 205.7 | |

「再評価の要件」の区分について

- ① 事業に着手した年度から起算して5年度内に未着工の事業
- ② 事業に着手した年度から起算して10年度内に完了が見込まれない事業
- ③ 再評価を行った年度の翌年度から起算して5年度内(規則第9条第8号に掲げる事業にあっては、10年度内)に完了する見込みがない事業(再々評価)
- ④ 事業の準備又は実施計画に係る調査に要する費用が予算に計上された年度から起算して5年度内に事業に着手する見込みがない事業
(地域高規格道路及びダム事業に限る)
- ⑤ 社会経済情勢の急激な変化、事業計画の重要な変更等により、再評価を実施する必要があると判断した事業(随時再評価)
- ⑥ 国の補助に係る事業の評価に関して国から別に指針等が示された場合で、当該指針等に従って評価を実施する必要があると判断した事業(随時再評価)

詳細審議地区の選定基準

- 随時再評価に該当するもの
 - 未着工に該当するもの
 - 再評価の中項目評価に「c」があるもの
 - 前回再評価の答申に付帯意見が付されたもの
 - 上記以外で前年度末の進捗率が90%未満の場合において、同一事業(※)が複数ある場合は総事業費の最も大きいものを対象とする。
- ※同一事業とは、規則第9条第1項の(1)～(13)の事業毎とする。